

## 教育学研究科教員業績一覧

(2017年4月1日から2018年3月31日)

### 基礎教育学コース

小玉重夫(教授)

#### 〈論文〉

小玉重夫「デモクラシーの担い手を育てる大学教育」逸見俊郎・原田晃樹・藤枝聡編『リベラルアーツとしてのサービスマーケティング—シティズンシップを耕す教育』北樹出版, 2017年4月, pp.72-85

小玉重夫「一八歳選挙権と学力の市民化: シティズンシップ教育の可能性」『民主主義教育21』Vol.11, 全国民主主義教育研究会(編集), 同時代社, 2017年4月, pp.59-63

小玉重夫「アクティブラーニングと地方自治—シティズンシップ教育の視点から」『地方自治』第834号, 2017年5月, 地方自治制度研究会, pp.2-10

#### 〈翻訳〉

ガート・ビースタ(Gert Biesta)「幼稚園のなかのデモクラシー: 幼児たちが世界に安心して存在することを支えるということ(Democracy in the Kindergarten: Helping young children to be at home in the world)」(訳: 鈴木康弘・高田正哉 監訳: 小玉重夫)『研究室紀要』第43号, 東京大学大学院教育学研究科基礎教育学研究室, 2017年7月, pp.193-209

#### 〈口頭発表〉

小玉重夫「ポストトゥルースの時代における教育と政治—よみがえる亡霊, 来たるべき市民—」教育思想史学会第27回大会口頭発表 2017.9.9. 武庫川女子大学

#### 〈その他〉

小玉重夫「研究状況報告 いま, なぜ「子どもの哲学」か: 哲学的思考の刷新へ向けて」教育哲学会『教育哲学研究』115号, pp.116-118, 2017年5月

小玉重夫「教育現場の市民自治 地域づくりのために: いじめの問題から18歳選挙権まで」『所報協同の発見』296号, pp.33-47, 2017年7月

小玉重夫「高大接続改革と主権者教育」『Voters』No.42., 明るい選挙推進協会, 2018年2月, pp.3-4

田中智志(教授)

#### 〈著書〉

田中智志(単著), 『共存在の教育学——愛を黙示するハイデガー』, 東京大学出版会, 2017, 総頁数506.

田中智志(単著), 『何が教育思想と呼ばれるのか——共存在と超越性』, 一藝社, 2017, 総頁数209.

#### 〈雑誌論文〉

田中智志(単著), 「名著再考 イリイチ『脱学校化社会』再訪」, 『思想』第1123号, 岩波書店, 2017. 11, pp. 121-128.

田中智志(単著), 「イメージへの与り——遠ざけられた共鳴共振」, 『教育哲学研究』第116号, 教育哲学会, 2017. 11, pp. 138-157.

田中智志(単著), 「感受性の超越性——「教育と宗教」について」『近代教育フォーラム』第26号, 教育思想史学会, 2017. 10, pp. 88-91.

田中智志(単著), 「海と人の教育学——公共財とフミリタス」『政策オピニオン』No.62, 一般社団法人平和政策研究所(WWW: ippjapan.org./archives./2434), 2017. 10, pp. 1-7.

田中智志(単著), 「教育学」『蛍雪時代4月臨時増刊 全国大学学部案内号』旺文社, 2018. 3, pp. 268-270.

山名 淳(教授)

#### 〈著書〉

田中耕治編『道徳教育』協同出版, 2017年, 210頁(山名は共著者。「道徳の思想と道徳教育——日本の思想を中心に」(20-32頁))

Mattig,R./Mathias,M./Zehbe,K. (Hrsg.): Bildung in fremden Sprachen? Pädagogische Perspektiven auf globalisierte Mehrsprachigkeit. transcript Verlag: Bielfeld 2018, 289S. (山名は共著者. Yamana,J.: Wie Bildung die pädagogische Semantik in Japan bildet. Eine Beobachtung des Herumtollens von Bedeutungen in Übersetzungen. (S.253-273))

大澤克美・松尾直博・東條憲二編『実践から考える

金融教育の現在と未来』東信堂，2018年，264頁（山名は共著者。「協同研究に見た金融と教育という異文化交流の意義——大学から」（153-160頁），「金融教育の新たな展開」（213-221頁），「教育の哲学と貨幣の哲学の対話へ」（232-234頁）

#### 〈雑誌論文〉

山名淳（単著）ビルドゥングとしての「PISA後の教育」——現代ドイツにおける教育哲学批判の可能性『教育哲学研究』第116号，2017，pp.101-118 [査読有り] [依頼有り]

山名淳（単著）「厄災の教育学」モデルにおける〈モノ/コト〉の連関性 今井康雄編『教育空間におけるモノとメディア——その経験的・歴史的・理論的研究』科学研究費助成事業（基盤研究(B)）成果報告書（科研番号 15H03478 2015-2017年度），2018，pp.134-139

ヴィーガー，L.「世界のモノ，人間形成のコト」（山名淳訳）今井康雄編『教育空間におけるモノとメディア——その経験的・歴史的・理論的研究』，前掲，2018，pp.35-45

山名淳（単著）「書評 渡邊隆信著『ドイツ自由学校共同体の研究—オーデンヴァルト校の日常生活史—』」『近代教育フォーラム』第26号，2017年，pp.151-153 [依頼有り]

#### 比較教育社会学コース

#### 恒吉僚子（教授）

#### 〈著書〉

Tsuneyoshi, R. & Kitamura, Y. (共著) *Introduction. Globalization and Japanese "Exceptionalism" in Education: Insider's Views into a Changing System*, edited by R. Tsuneyoshi. New York: Routledge, 2018, pp.3-18.

Tsuneyoshi, R. (単著) "Exceptionalism" in Japanese Education and its Implications. *Globalization and Japanese "Exceptionalism" in Education: Insider's Views into a Changing System*, edited by R. Tsuneyoshi. New York: Routledge, 2018, pp.19-22.

Tsuneyoshi, R. and others (共著) Japanese Schooling and the Global and Multicultural Challenge. *Globalization and Japanese "Exceptionalism" in Education: Insider's Views into a Changing System*, edited by R. Tsuneyoshi. New York: Routledge, 2018, pp. 190-212.

#### 〈論文〉

Tsuneyoshi, R. (単著) "The Internationalization of Japanese Education: 'International' Without the 'Multicultural'" *Educational Studies in Japan: International Yearbook*, No. 12, March, 2018, pp. 49-59.

#### 〈学会等発表〉

恒吉僚子「教育モデルが国境を越える時代を俯瞰する—比較教育学の原点にもどる」日本比較教育学会第53回公開シンポジウムでの「開会の趣旨」(火) 東京大学教育学部附属学校教育高度化・効果検証センターとの共催)，2017年6月

恒吉僚子「グローバルスタンダードな特別活動の創造—国内外発信の意義と方法」日本特別活動学会第26回大会（東海大会）の主題：シンポジウム「グローバルスタンダードな特別の総合—TOKKASUの国内外発信」，2017年8月

Tsuneyoshi, R. Messages from Asian Education: The Case of Japanese TOKKATSU, 招待講演，高麗大学（東アジア人文教育研究会），2017年9月

恒吉僚子「教育研究の国際化」教育関連学会連絡協議会，シンポジウム，話題提供，東京大学，2018年3月

恒吉僚子「特別活動と教科教育がもたらす認知的・非認知的スキルのコラボレーション」（子どもの貧困に教育・福祉はどのように立ち向かっているか—認知スキルと非認知スキルのコラボレーションが子どもの未来をつくる—）東京大学教育学研究科・学校教育高度化・効果検証センター主催（ビデオ出演），2018年3月

#### 〈その他〉

恒吉僚子「国際化の中で日本の学校の選択—国際化を契機とした変化」『児童心理』2月号，2017，107-109

Tsuneyoshi, R., Takahashi, F. and others, *Myoko Friendship School: Linking Tokkatsu with Social Education, Tokkatsu Series 2 DVD*, 科学研究費基盤A, 学校教育高度化・効果検証センター，2017

恒吉僚子，高橋史子，草彌佳奈子「教育モデルが国境を越える時代を俯瞰する—比較教育学の原点にもどる」『比較教育学研究』56号，186-194，大会報告，2018

恒吉僚子「近未来が求める子どもの資質と能力」『日本教育』4・5月合併号，No.476:12-15，2018

## 橋本 鉦 市 (教授)

## 〈論文〉

橋本鉦市「専門職養成プロセスにおける実務要件－医師の実地修練と弁護士の実務修習を中心に－」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第57巻、2018年3月、67-84頁。

橋本鉦市「『子育て支援』の政策課題の生成と変容－国会会議録を分析対象として－」橋本鉦市編『子育て支援「業界」の実証的研究－新制度論による定量的・定性的分析－』、13-24頁、2018年3月

橋本鉦市「平成期における『子育て支援』の新聞報道記事の計量テキスト分析」橋本鉦市編『子育て支援「業界」の実証的研究－新制度論による定量的・定性的分析－』、25-34頁、2018年3月

## 〈報告書〉

橋本鉦市編『子育て支援「業界」の実証的研究－新制度論による定量的・定性的分析－』（2015～2017年度科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究 最終報告書）、全141頁、2018年3月

## 〈その他〉

佐藤健二、加藤陽子、藤井恵介、橋本鉦市、宇野重規「東大140年、回顧と展望（座談会）」『淡青』36号、24-27頁、2018年3月

橋本鉦市「大学をめぐる力学」『戦前～戦後改革期～50年代の教育社会学』『教育社会学事典』（日本教育社会学会編）、丸善出版、2018年1月

## 本 田 由 紀 (教授)

## 〈著書〉

本田由紀（編著）、『国家がなぜ家族に干渉するのか：法案・政策の背後にあるもの』（伊藤 公雄氏との共編）、青弓社、2007、総頁数172。

本田由紀（編著）、『危機のなかの若者たち：教育とキャリアに関する5年間の追跡調査』（乾 彰夫氏、中村高康氏との共編）、東京大学出版会、2007、総頁数410。

本田由紀（編著）、『教育社会学のフロンティア1 学問としての展開と課題』（中村高康氏との共編）、岩波書店、2007、総頁数296。

## 〈その他〉

本田由紀（単著）、「能力とは：社会学の観点から」、『日本労働研究雑誌』59(4)、2017、pp.46-48。

本田由紀（単著）、「教育・仕事・家族をめぐる課題と新たな結びなおし」、『医療と社会』27(1)、2017、pp.31-39。

本田由紀（単著）、「仕事の世界はこれからどう変わっていくのか」、『月刊高校教育』50(8)、2017、pp.24-27。

本田由紀（単著）、「求められる社会の組み立て直しと安倍政権の壁」、『自然と人間』251、2017、pp.2-5。

本田由紀（単著）、「社会の「ほころび」を修復するために」、『月刊保団連』1242、2017、pp.10-16

本田由紀（単著）、「教育の管理統制強化 戦時下想起させる復古主義「人づくり革命」で国への貢献迫る」、『週刊金曜日』25(40)、2017、pp.22-23。

本田由紀（共著）、「日本教育学会「若手会員のニーズに関するアンケート調査」の分析結果」（前田 麦穂氏、齋藤崇徳氏との共著）、『教育学研究』84巻4号、2017、pp.446-454。

本田由紀（単著）、「「働くこと」が分かる10冊 押しつぶされないうために「働き方」と「働かされ方」を知る」、『Journalism』329、2017、pp.26-31

本田由紀（単著）、「生きてゆける社会へ」、『教育』863、2017、pp.59-65。

本田由紀（単著）、「もがきながら手をのばしている」、『UP』47(2)、2018、pp.1-6。

本田由紀（座談会）、「建築教育のゆらぎ：作品主義でも、プロジェクトでもなく」、『建築雑誌』133(1706)、2018、pp.6-11。

本田由紀（講演録）、「日本社会の変容と教育の課題」、『東京私学教育研究所所報』83、2018、pp.66-167。

## 中 川 宗 人 (特任研究員)

## 〈雑誌論文〉

中川宗人（単著）、「戦前期日本における経営理念－武藤山治とバーナードにおける組織観の分析を通して」、『大原社会問題研究所雑誌』第705号、大原社会問題研究所、2017、pp.57-73。

中川宗人（単著）、「祝辞における労働とジェンダー——鐘紡・武藤山治の女性労働者に対する認識の分析を通して」、『年報社会学論集』第30号、関東社会学会、2017、pp.39-50。

中川宗人（単著）、「労働研究と社会学の架橋——『就業機会と報酬格差の社会学』を読む」、『書評ソシオロギス』第13号、ソシオロギス編集委員会、2017、pp.1-16。

## 生涯学習基盤経営コース

李 正 連 (准教授)

## 〈著書〉

李正連 (編著) 『躍動する韓国の社会教育・生涯学習』  
(梁炳賛, 小田切督剛, 金侖貞氏との共編), エイ  
デル研究所, 2017年6月, 総頁数498.

## 〈論文〉

李正連 (単著) 「韓国文解教育の歩みと成果」『月刊  
社会教育』No.733, 2017年6月, pp.66-69.

李正連 (単著) 「教育改革から20年, 新たなステッ  
プに向けて」東京・沖縄・東アジア社会教育研究  
会『東アジア社会教育研究』Vol.22, 2017年9月,  
pp.2-4.

李正連 (共著) 「社会教育・生涯学習の国際的動向  
(アジア)」(上田孝典, 山口香苗, 大安喜一氏と  
の共著) 社会教育推進全国協議会編『社会教育・  
生涯学習ハンドブック第9版』エイデル研究所,  
2017年10月, pp.266-269.

李正連 (単著) 「植民地期朝鮮の夜学教師に関する一  
考察—夜学経験者のオーラルヒストリーをもとに—」  
名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属生  
涯学習・キャリア教育研究センター『生涯学習・キャ  
リア教育研究』第14号, 2018年3月, pp.27-39.

## 〈学会発表・講演等〉

李正連 「躍動する韓国の社会教育・生涯学習をどう  
見るか」日本社会教育学会第64回研究大会・ラウ  
ンドテーブル (コーディネーター), 2017年9月  
17日, 埼玉大学.

李正連 「世界の動向: 韓国・文解教育の展開」町田  
市生涯学習センター・時事問題講座『学びの機会  
を保障するには』2018年3月3日, 町田市民文  
学館.

新 藤 浩 伸 (准教授)

## 〈著書〉

小林真理 (編), 『文化政策の現在2 拡張する文化  
政策』, 東京大学出版会, 2018年3月, 総頁数336  
(分担執筆).

小林真理 (編), 『文化政策の現在1 文化政策の思  
想』, 東京大学出版会, 2018年2月, 総頁数256  
(分担執筆).

社会教育推進全国協議会 (編), 『社会教育・生涯  
学習ハンドブック 第9版』, ミネルヴァ書房,  
2017年10月, 総頁数996 (分担執筆).

## 〈学会発表〉

新藤浩伸, 「地域文化をめぐる社会教育研究から」,  
日本社会教育学会六月集会 プロジェクト研究「地  
域づくりと社会教育」, 2017年6月3日, 東洋大  
学白山キャンパス.

## 〈講演等〉

新藤浩伸, 「コミュニティと社会教育—戦後教育  
(学)の問い返しに向けて—」, サントリー文化財  
団「2020年代の日本と世界」研究会, 2018年2月  
2日.

新藤浩伸, 「地域における文化芸術・生涯学習拠点  
の役割」, 平成29年度文化庁委託事業 中四国地域  
アートマネジメント研修会, 2017年12月7日, 下  
関市生涯学習プラザ.

新藤浩伸, 「公民館を考える講座 公民館ってどんな  
ところ?」, 平成29年度保谷駅前公民館利用者懇  
談会, 2017年9月30日, 東京都西東京市保谷駅前  
公民館.

新藤浩伸, 「空間が持つ力」, 千葉県柏市「地域ギャ  
ラリー講座 (第1回)」, 2017年9月27日, 柏市  
中央公民館・布施近隣センター.

## 〈書評〉

新藤浩伸, 「著書紹介: 清水裕之『21世紀の地域劇  
場 パブリックシアターの理念, 空間, 組織, 運  
営への提案』をめぐって」, 清水裕之先生退職記  
念事業実行委員会編・発行『清水裕之先生 名古  
屋大学退職記念誌』, pp.62-65, 2017年7月.

## 〈その他〉

新藤浩伸, 「私達の「はこべ」の継続を考えよう2」,  
月刊はこべ, 490, p.35, 2018年1月.

新藤浩伸 (記録), 「インタビュー「ゆるぎない路線」  
とは何だったのか—北田耕也さんに聞く」, 月刊  
社会教育, 62(1), pp.12-17, 2018年1月.

佐野万里子, 井口啓太郎, 菊池まり, 平井里美, 新  
藤浩伸 (司会), 「座談会 社会教育の今とこれか  
ら—市民の学びを支えるために」, 月刊社会教育,  
62(1), pp.18-27, 2018年1月.

新藤浩伸, 「ももんが」, 中央線, 74, pp.116-119,  
2017年12月.

『月刊社会教育』編集委員会 (文責: 新藤浩伸), 「生  
涯学習政策局及び社会教育課廃止を含む文部科  
学省機構改革の計画について」, 月刊社会教育,  
61(12), pp.56-59, 2017年12月.

## 大学経営・政策コース

小方直幸(教授)

### 〈雑誌論文〉

- 小方直幸(単著),「化学工業の展開と人材の高等歴  
化」,『大学経営政策研究』第8号,2018,pp.3-18.  
小方直幸(共著),「大学の教育組織が教員養成に及  
ぼす影響と課題—小学校教員の複数教科指導に着  
目して」(高旗浩志・小方朋子との共著),『名古屋  
高等教育研究』第18号,2018,pp.135-153.  
小方直幸(単著),「授業を通じた学生の成長—善意  
の促進と無意識の疎外—」,『IDE現代の高等教育』  
No.603,2018,pp.9-14.

福留東土(准教授)

### 〈著書〉

福留東土編『専門職教育の国際比較研究』高等教  
育研究叢書141,広島大学高等教育研究開発セン  
ター,2018年3月。

### 〈雑誌論文〉

- 福留東土「研究大学モデルをどう捉えるか—米国に  
おける研究動向からの示唆—」『比較教育学研究』  
第56号,日本比較教育学会,2018年2月,173-  
184頁。  
福留東土・戸村理「米国リベラルアーツ・カレッジ  
の経営とその危機—スイートプレイヤー・カレッ  
ジの閉鎖とその撤回を巡る分析」『大学論集』第  
50集,広島大学高等教育研究開発センター,2018  
年3月,65-80頁。  
福留東土「学士課程における専攻選択プロセスの日  
米比較」『大学経営政策研究』第8号,2018年3  
月,19-36頁。

### 〈書評〉

アキ・ロバーツ・竹内洋著『アメリカの大学の裏側  
—「世界最高水準」は危機にあるのか?』IDE大  
学協会編『現代の高等教育』No.596,2017年12月,  
72-73頁。

### 〈招待講演〉

福留東土「大学の学術を支える人材となるために」  
東京大学URA研修会,於東京大学,2017年6月。  
福留東土「現代の大学と学生支援」東京大学学務研  
修会総会,於東京大学,2017年12月。

両角亜希子(准教授)

### 〈雑誌論文〉

- 両角亜希子「ビジョンに基づき課題を改善する

PDCAサイクルの恒常化(事例:東京女子大学)」  
リクルート『カレッジマネジメント』204号,  
2017年5-6月号,32-35頁

- 両角亜希子「私立大学マネジメントの課題」『文  
部科学教育通信』連載・概説 高等教育論入門  
(39),No.412,2017年5月29日号,12-15頁
- 両角亜希子「大学職員教育コースの役割」『IDE現  
代の高等教育』No.591,2017年6月号,47-53頁
- 両角亜希子「私大ガバナンス・マネジメント改革  
PT調査報告⑨変わらぬ教育理念・変わり続ける  
運営スタイル—東京造形大学」アルカディア学報  
2692号(2017.07.19)
- 両角亜希子「国立大学経営と教員人件費」『IDE現  
代の高等教育』No.594,2017年10月号,20-25頁
- 両角亜希子・小林武夫・塩田邦成・福井文威「大  
学上級管理職向け研修・教育プログラムの現状と  
課題」『大学経営政策研究』2018年3月,第8号,  
95-111頁
- 平本早雪・両角亜希子「私立大学における学長の  
属性と影響力—上級管理職調査から」『東京大学  
大学院教育学研究科紀要』2018年3月,第57巻,  
147-164頁

### 〈口頭発表〉

- 両角亜希子「大学の費用負担はどうあるべきか」  
東京大学五月祭キャンパスツアー—模擬講義(2017  
年5月20日,東京大学教育学部)
- 両角亜希子「研究生産性を向上させたのは誰か」  
日本高等教育学会第20回大会(2017年5月27日,  
東北大学)
- 両角亜希子「課題研究2 論点整理とコメント」  
日本高等教育学会第20回大会(2017年5月28日,  
東北大学)
- 両角亜希子「大学での学びを考える」筑紫丘高校  
模擬講義(2017年8月1日,東京大学教育学部)
- 両角亜希子・長島万里子「保育者養成の高等歴化  
に関する研究—機関側の行動から」東京大学大  
学院教育学研究科附属産達保育実践政策学セン  
ター2017年度関連SEEDSプロジェクト成果中間報告  
会(2017年8月6日,東京大学安田講堂にてポス  
ター発表)
- 両角亜希子「私立大学のマネジメント改革と大学  
職員の役割」東京造形大学,新潟青陵大学合同研  
修会(2017年8月24日,東京造形大学)
- 両角亜希子「教学マネジメントの確立と学長の  
リーダーシップ」日本私立大学連盟 平成29年度

第2回学長会議（2018年1月16日，アルカディア市ヶ谷）

〈その他〉

- 「専門家の眼から見た「塾長選」『慶應塾生新聞』（2017年11月10日）（インタビュー記事）
- Book Review 両角亜希子「私立大学の経営難を考える三冊－渡辺孝著『私立大学はなぜ危ういのか』・小川洋著『消えゆく「限界大学」－私立大学定員割れの構造』・島野清志著『危ない大学・消える大学2018年版』－『IDE現代の高等教育』No.597, 2018年1月号

教育心理学コース

遠藤利彦（教授）

〈著書〉

遠藤利彦（2017）. 赤ちゃんの発達とアタッチメント－乳児保育で大切にしたいこと. ひとなる書房.

遠藤利彦（2017）. 両刃の剣の使い方：感情. 鹿毛雅治（編），パフォーマンスがわかる12の理論. 岩崎学術出版.

遠藤利彦（2017）. 感情・人格心理学. 野島一彦（編），公認心理師入門：知識と技術（こころの科学増刊）. 日本評論社.

遠藤利彦（2017）. アタッチメントが育む信頼感・社会情動スキルの重要性. 汐見稔幸（編），平成29年告示保育所保育指針まるわかりガイド. チャイルド本社.

遠藤利彦（2017）. 生涯にわたるアタッチメント. 北川恵・工藤晋平（編），アタッチメントに基づく評価と支援. 誠信書房.

遠藤利彦（2018）. 基礎心理学. 日本心理研修センター（監修），公認心理師現任者講習会テキスト. 金剛出版.

〈学術誌等論文〉

榎原良太・富塚ゆり子・遠藤利彦（2017）. 子ども・保護者との関わりにおける保育士の認知的な感情労働方略と精神的健康の関連. 発達心理学研究（日本発達心理学会誌），28, 46-57.

遠藤利彦（2017）. 親子関係と非認知的な心の発達. 日本教育，470, 6-9.

遠藤利彦（2017）. アタッチメント：子どもの社会情緒的発達. ほいくしんり，10, 6-17.

遠藤利彦（2017）. 乳幼児期における“Care”と“Education”の表裏一体性. 発達，150, 2.

遠藤利彦（2017）. アタッチメント理論を概括する.

こころと社会（日本精神衛生会），48, 84-88.

遠藤利彦（2017）. 子どもの育ちにおけるアタッチメントとは？ 乳児保育（全国乳児福祉協議会），184, 6-13.

遠藤利彦（2017）. 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(1)：総論. 保育通信（全国私立保育園連盟），753, 32-35.

遠藤利彦（2018）. 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(2)：そもそもアタッチメントとは何か. 保育通信（全国私立保育園連盟），754, 16-20.

遠藤利彦（2018）. 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(3)：アタッチメントの個人差とそれを分けるもの. 保育通信（全国私立保育園連盟），755, 26-29.

遠藤利彦（2018）. 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(4)：アタッチメントと不適切な養育. 保育通信（全国私立保育園連盟），756, 24-27.

遠藤利彦（2018）. アタッチメント理論における基點と現代的展開. こころの科学（日本評論社），198, 1-16.

遠藤利彦（2018）. アタッチメント理論から見る子どもの育ちと家庭. 世界の児童と母性（資生堂社会福祉事業財団），83, 7-11.

遠藤利彦（2018）. 心身発達の土台を築くアタッチメント. 保育の友，66, 21-24.

遠藤利彦（2018）. 赤ちゃんとつながる：アタッチメントが心身発達に及ぼす影響. 小児看護，41, 244-249.

遠藤利彦（2018）. アタッチメントが拓く生涯発達. 発達（ミネルヴァ書房），153, 2-9.

遠藤利彦（2018）. 「学力の評価と測定をめぐって」：「非認知」なるものの発達と教育：殊に学力形成との関わりにおいて. 教育心理学年報（日本教育心理学会），57, 220-225.

遠藤利彦（2018）. 「遺伝と環境」による発達研究最前線. エデュカール，83, 57-63.

〈報告書〉

遠藤利彦（統括）（2018）. 「社会情緒的コンピテンス調査に係る分析結果」報告書（研究代表：濱口太久未）. 国立教育政策研究所.

遠藤利彦 [研究代表]（2018）. 『乳児院養育の可能性と課題を探る－現代発達科学的視座からの検証－』. 平成29年度・子どもの虹情報研修センター研究報告書.

### 〈その他エッセイ・記事等〉

遠藤利彦 (2017). 書評: 林もも子(著), 精神分析再考 (みすず書房). 児童心理 (金子書房). 2017年10月号.

遠藤利彦 (2017). 非認知的な心の力の発達と保育者の役割. 保育士会だより, 278, 2-5. 全国社会福祉協議会・全国保育士会.

遠藤利彦・鷹橋清香 (2017). 対談: 子どもと大人が共に育つ, 心豊かな子育てのために. 月刊「同朋」. 2017年5月号.

遠藤利彦 (2018). 書評: アントニア・ピフィルコ・ジェラルディン・トーマス(著), アタッチメント・スタイル面接の理論と実践一家族の見立て・ケア・介入 (金剛出版). 精神療法, 44(1).

遠藤利彦 (2018). 附属双生児研究のこれまでとこれからに想うこと. 東京大学教育学部附属中等教育学校70周年記念「双生児研究記念論集」.

遠藤利彦 (2017-2018). 『教育プロ』, 2017年4月～2018年3月. 全13回連載. 「保育・幼児教育と非認知的な心の力の発達」「アタッチメントと自律性の発達」「アタッチメントと安心感の環」「アタッチメントと自他に対する基本的信頼感」「アタッチメントと心の理解能力・共感性の発達」「情緒的利用可能性の大切さ」「真の自己と偽りの自己」「孤独な科学者としての遊びが拓くもの」「社会的な法律家としての遊びが拓くもの」「自閉症スペクトラム児におけるアタッチメント」「自閉症スペクトラム児におけるアタッチメント」「自閉症スペクトラム児を取り巻く環境の役割を見直す」「自閉症スペクトラムの問題の本質について考える」

### 〈学会等発表〉

遠藤利彦. 自己と社会性の揺籃としてのアタッチメント (市民公開講座: 招待講演). 日本赤ちゃん学会第17回学術集会 (久留米大学). 2017年7月9日.

遠藤利彦. 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達 (基調講演). 北海道子ども学会第22回大会 (北星学園大学).

石井佑可子・小松佐穂子・遠藤利彦・武藤世良・利根川明子. 情動知性: どう捉え, いかに育むか (自主シンポジウム・指定討論). 日本心理学会第81回大会 (久留米大学). 2017年9月20日.

大塚雄作・柴山直・遠藤利彦・植阪友理・野口裕之. 学力の評価と測定をめぐって (自主シンポジウム・話題提供). 日本教育心理学会第59回総

会 (名古屋大学). 2017年10月7日.

遠藤利彦・山口慎太郎・赤林英夫・川口大司・野口晴子・大澤真理. 乳児を社会科学的に分析する: 発達保育実践政策学の深化 (企画・指定討論). 日本学術会議主催学術フォーラム (日本学術会議講堂). 2017年10月24日.

石井佑可子・蒲谷慎介・松本学・石井悠・遠藤利彦. 育てる者の, 情 (へ) の知性: 領域特異的情動知性の提案へ向けて (自主シンポジウム・指定討論). 日本発達心理学会第29回大会 (東北大学). 2018年3月23日.

利根川明子・河本愛子・川本哲也・武藤世良・遠藤利彦. 非認知的 (社会情緒的) コンピテンスの発達と展望 (自主シンポジウム・指定討論). 日本発達心理学会第30回大会 (東北大学). 2018年3月24日.

### 〈講演〉

遠藤利彦. 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと自己・社会性の発達: part 2. 群馬県ASK保育関係者講演会 (高崎市・育英短期大学). 2017年4月22日.

遠藤利彦. 招待講演: 子育て・子育ての基本について考える: アタッチメントという視座から見る虐待. 滋賀県保育協議会園長研修講演会 (大津市コラボ滋賀). 2017年5月12日.

遠藤利彦. 招待講演: 子どもの育て方・育ち方: アタッチメントが果たす重要な役割. 日本保育協会春期函館地区・保育所保育士研修講演会 (函館アリーナ). 2017年5月20日.

遠藤利彦. 招待講演: 保育者のスキルアップと子ども理解のために: careとeducationの表裏一体性. 石川県保育者研修講演会 (金沢商工会議所会館). 2017年5月29日.

遠藤利彦. 招待講演: 子どもの非認知能力を育むために家庭でできること. 石川県教育委員会山形「学びの態度」育成事業講演会 (石川県地場産業振興センター・コンベンションホールメトロポリタン山形). 2017年5月30日.

遠藤利彦. 招待講演: 子育て・子育ての基本について考える. 自由民主党・全国女性議員政策研究会講演 (自由民主党本部). 2017年6月2日.

遠藤利彦. 招待講演: 子どもが真ん中にある保育とは: 保育の「質」を問う. 全国私立保育園研究大会 (国立京都国際会館). 2017年6月8日.

遠藤利彦. 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメ

- ントと保育者の役割. 三鷹市保育研修講演(三鷹市役所). 2016年12月9日.
- 遠藤利彦 招待講演: 子育て・子育ての基本とは: アタッチメントと非認知的な心の発達. 富山県子育て支援センター連絡協議会講演会(富山国際会議場). 2017年6月21日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 札幌市保育所職員研修講演会(札幌市WEST19). 2017年6月30日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 千葉市民間保育園協議会講演会(千葉市・きぼーる). 2017年7月14日.
- 遠藤利彦 招待: 子どもの育ちにおけるアタッチメントと保育者の役割. 米沢市保育講演会(置賜総合文化センター). 2017年7月15日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児のこころ: 子育て・子育ての発達心理学. 京都府保育協会保育講演会(京都キャンパスプラザ). 2017年7月21日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと保育. 豊田市保育研修講演会(豊田市民会館). 2017年7月21日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割. 名古屋市保育士会研修講演会(名古屋市・鯉城ホール). 2017年7月29日.
- 遠藤利彦 招待講演: 0, 1, 2歳の発達~愛着形成を中心に~. 千葉市特別支援教育研究会講演(植草学園大学附属弁天こども園). 2017年7月31日.
- 遠藤利彦 招待講演: 3歳未満児保育におけるアタッチメントの重要性. 北海道私立幼稚園協会教育研究大会(札幌ガーデンパレス). 2017年8月1日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割. 旭川民間保育所乳児保育士研修会講演(旭川トーヨーホテル). 2017年8月3日.
- 遠藤利彦 招待講演・パネルディスカッション: 自分の感情とどうつきあうか: 乳幼児期から思春期の子どもの世界. 第7回茅ヶ崎市響きあい教育シンポジウム(茅ヶ崎市役所コミュニティホール). 2017年8月4日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 青森県私立幼稚園教員研修大会講演(八戸プラザホテル). 2017年8月9日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 北海道文教大学人間科学部こども発達学科発足8周年記念事業特別講演会(北海道文教大学). 2017年8月25日.
- 遠藤利彦 招待講演: 子育て・子育ての基本について考える: 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 第32回東北地区教員研修大会・宮城大会(ホテルキャスルプラザ多賀城). 2017年9月2日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期における非認知的な心の力の発達と保育・子育て支援の役割. 玉名市公私立保育園研修会(玉名市文化センター). 2017年9月16日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児のアタッチメントと社会性を育む保育. 静岡地区私立幼稚園協会講演会(静岡県男女共同参画センターあざれあ). 2017年9月27日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児のこころの発達における保育者の関わり方. 川越市民間保育園保育研修会(ウエスタ川越). 2017年9月28日.
- 遠藤利彦 招待講演: 保育所保育指針の改定で更に見直された乳児保育の大切さ. 東京都社会福祉協議会保育部会講演会(東調布市文化会館たづくり). 2017年10月17日.
- 遠藤利彦 招待講演: 思春期発達基盤としてのアタッチメント. 横浜市児童相談所係別研修講演会(横浜中央児童相談所). 2017年10月20日.
- 遠藤利彦 基調講演: アタッチメントと子どもの発達. 日本アタッチメント育児協会第8回大会(淑徳大学・短期大学部). 2017年10月22日.
- 遠藤利彦 招待講演: 子育て・子育ての基本とは?: アタッチメントが築く心身発達の礎. 第8回子育て支援センター全国セミナー(下関市民会館). 2017年10月27日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと自己・社会性の発達. 富山県保育研修講演会(高岡市生涯学習センター). 2017年11月2日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割. 群馬県保育協議会施設長研修講演会(渋川市・ホテル天坊). 2017年11月10日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 京都府私立幼稚園研修講演会(リーガロイヤルホテル京都). 2017年11月11日.
- 遠藤利彦 招待講演: アタッチメントと子どもの社会情緒的発達. 鹿児島市保育園協会(鹿児島サンロイヤルホテル). 2017年11月17日.

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期の子どもの育ちと保育者の役割。仙台市保育所連合会研修講演会（仙台サンプラザ）。2017年11月18日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期における非認知的な心の発達と養育者の役割。中野区私立幼稚園連合会講演会（中野ZEROホール）。2017年11月21日。

遠藤利彦 招待講演：アタッチメントと子どもの育ち。三重県保育士会講演会（三重県総合文化センター）。2017年11月25日。

遠藤利彦 招待講演：ヒトの心の不思議と保育。日本保育協会関東地区保育研究会講演（ホテルエピナール那須）。2017年11月30日。

遠藤利彦 基調講演：子どもの育ちにおけるアタッチメントとは？ 全国乳児社会福祉協議会上級職員研修会（全国社会福祉協議会）。2017年12月1日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。観音寺市保育ブロック研究会講演（観音寺市民会館）。2017年12月2日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと自己・社会性の発達。全国市立保育園連盟・保育カウンセラー養成管理者公開講演（台東区・全国保育会館）。2017年12月5日。

遠藤利彦 招待講演：安定したアタッチメントこそが非認知的な心の発達を豊かに拓く。佐賀県私立幼稚園・認定こども園連合幼児教育研修会（ホテルマリターレ創世）。2018年1月6日。

遠藤利彦 招待講演：就学前期におけるアタッチメントと子どもの社会情緒の発達。神奈川県乳児保育講演会（横浜女子短期大学）。2018年1月12日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割。北海道函館短期大学記念講演会（函館短期大学）。2018年1月13日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割。日本保育協会神奈川県支部保育研修講演会（藤沢市商工会議所）。2018年1月12日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。久留米市保育士会保育研修講演会（ホテルマリターレ久留米）。2018年1月16日。

遠藤利彦 基調講演：子育て・子育ての基本について考える：「非認知」的な心の土台が拓く子どもの豊かな未来。山形県私立学校総連合会公開セミナー（ホテルメトロポリタン山形）。2018年1月

19日。

遠藤利彦 招待講演：最新の研究から学ぶ新しい赤ちゃん像と保育実践。全国私立保育園連盟保育総合研修会（神戸ANAクラウンプラザホテル）。2018年1月25日。

遠藤利彦 招待講演：子育て・子育て支援の基本を考える。真宗大谷保育研究会講演（文京区・真宗大谷派・親鸞仏教センター）。2018年2月13日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。群馬県保育ASK講演会（群馬県社会福祉総合センター）。2018年2月17日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達：リーダーシップが拓く子どもの未来。全国私立保育園連盟・青年会議特別セミナー（浅草ビューホテル）。2018年2月19日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと自己・社会性の発達。京都府舞鶴民間保育園連盟保育研修講演会（舞鶴商工観光センター）。2018年2月20日。

遠藤利彦 パネルディスカッション：幼児教育と保育の原点と新常識。日本保育協会北信越ブロック保育連絡協議会（ANAクラウンプラザホテル金沢）。2018年2月22日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。埼玉ここネット・本庄市保育研修合同講演会（本庄市民会館）。2018年2月24日。

遠藤利彦 招待講演：アタッチメント障害と発達障害の間。葛飾区教育委員会特別支援研修講演会（葛飾区川端小学校）。2018年2月27日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。石川県健康福祉部「幼児教育実践研修」（石川県社会福祉会館）。2018年3月12日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントの重要性と保育者の役割。長崎市保育全体研修会講演（ザ・ホテル長崎BWプレミアコレクション）。2018年3月15日。

**岡田 猛（教授）**

〈著書、分担執筆〉

(1) Ishiguro, C. & Okada, T. (2018). How can inspiration be encouraged in art learning? In T.

Chemi, & X. Du (Eds.) *Arts-based methods and organizational learning: Higher education around the world*. pp.205-230. River publisher.

〈論文〉

- (1)石黒千晶・岡田猛 (2017). 芸術学習と外界や他者による触発：美術専攻・非専攻学生の比較, *心理学研究*, 88, 5, 442-451.
- (2)野村亮太, 有原穂波, 八桁健, 小澤基弘, 岡田猛 (2018). 児童の版画作品を見る目の熟達：教員養成系大学美術科教員と教育実習を経験した大学生の比較を通して. *美術教育学研究*, 50, 273-280.

〈国際学会, 国際シンポジウム発表等〉

- (1) Shimizu, D., & Okada, T. (2017). The Complicated Interaction between Expert Breakdancers: Distance as the Hidden Dimension. *Fourth International Workshop of Skill Science*, (Tokyo, Japan).

針 生 悦 子 (教授)

〈著書〉

- 針生悦子 「発達 (概論)」 (pp.165-167), 「言語獲得のメカニズム」 (pp.169-170), 「言語獲得と制約」 (pp.170-171), 「発達障害」 (pp.173-174), 「U字型の発達」 (pp.174-175), 「バイリンガル」 (pp.176-177), 人工知能学会 (編) 「人工知能学事典」, 2017年7月.
- 針生悦子 「学習・言語」 日本心理研修センター (監) 「公認心理師現任者講習会テキスト 2018年版」 (pp.244-248), 金剛出版, 2018年1月.

〈学術論文〉

- Kaneshige, T. & Haryu, E. Infants predict expressers' cooperative behavior through facial expressions. *PLoS One*, 12(10), e0185840. doi: 10.1371/journal.pone.0185840, 2017年10月.

〈学会発表〉

- Haryu, E., & Saito, Y. Japanese mothers' use of infant-directed special vocabulary *ikujigo*: Its age-related change and role in children's word learning. *Poster presented at the Biennial Meeting of the Society for Research in Child Development*, Austin, USA, 2017年4月.
- Ikeda, S., & Haryu, E. The role of attention shifting in development of emotion inference from speech. *Poster presented at the Biennial Meeting of the Society for Research in Child Development*, Austin, USA, 2017年4月.
- Haryu, E. Use of infant-directed special vocabulary

fosters word learning. *Poster presented at the 3rd Workshop on Infant Language Development*, Bilbao, Spain, 2017年6月.

針生悦子 「養育者の育児語使用：子どもの月齢や語彙発達との関連」 言語発達研究と言語聴覚療法：それらをどうつなぐか, 竹田綜合病院, 福島, 2017年7月.

針生悦子 「母親の育児語使用：月齢変化と子の初期語彙獲得への影響」 (シンポジウム「育児語を考える：なぜ大人は使うのか, そこから子どもは何を学ぶのか」話題提供), 日本心理学会第81回大会, 久留米, 2017年9月.

〈その他〉

- 針生悦子 「子どもの言語学習 大人の言語学習」 第17回生命科学シンポジウム 東京大学, 2017年4月.
- 針生悦子 「言語発達研究は『基礎研究』なのか?」 ニュースレター (日本発達心理学会), 第81号, pp.6-7, 2017年6月.
- 針生悦子 「言語発達心理学の最前線」 (招待講演) 言語発達研究と言語聴覚療法：それらをどうつなぐか, 竹田綜合病院, 福島, 2017年7月.
- 論文賞 (日本認知科学会) 2017年9月.

岡 田 謙 介 (准教授)

〈著書〉

- M.D.リー, E.-J.ワーゲンメイカーズ (著) 井関龍太 (訳) 岡田謙介 (解説) (2017). *ベイズ統計で実践モデリング：認知モデルのトレーニング*. 北大路書房. pp. 231-242.
- 岡田謙介・星野崇宏 (2018). 第3章 大学ではどんな心理学を教わるの? -深く学ぶために日本心理学会 (監修) 楠見孝 (編) *心理学って何だろうか? 四千人の調査から見える期待と現実*. 誠信書房. pp. 64-90.

〈論文〉

- Okada, K. & Hoshino, T. (2017). Researchers' choice of the number and range of levels in experiments affects the resultant variance-accounted-for effect size. *Psychonomic Bulletin & Review*, 24, 607-616.
- 山口一大・岡田謙介 (2017). TIMSS2007の日本人サンプルを用いた認知診断モデルと項目反応理論モデルの比較. *日本テスト学会誌*, 13, 1-16.
- 北條大樹・岡田謙介. (2017). 評定尺度における反応傾向を考慮した係留寸描データのベイズ的項目

反応モデル. データ分析の理論と応用, 6, 113-125.

山口一大・岡田謙介 (2017). 近年の認知診断モデルの展開. 行動計量学, 44, 181-198.

岡田謙介 (2017). ASA声明とこれからの統計学の使われ方: 最近の心理統計分野の動向から. 社会と調査, 19, 88-93.

Okada, K., Vandekerckhove, J. & Lee, M.D. (2018). Modeling when people quit: Bayesian censored geometric models with hierarchical and latent-mixture extensions. *Behavior Research Methods*, 50, 406-415.

Shibuya, Y., Okada, K., Ogawa, T., Matsuda, I. & Tsuneoka, M. (2018). Hierarchical Bayesian models for the autonomic-based concealed information test. *Biological Psychology*, 132, 81-90.

Yamaguchi, K. & Okada, K. (2018). Comparison among cognitive diagnostic models for the TIMSS 2007 fourth grade mathematics assessment. *PLoS One*, 13(2): e0188691.

北條大樹・岡田謙介. (2018). 係留ビネット法による反応スタイルの分類. ヨーロッパの大規模健康調査を例に. 行動計量学, 45, 13-25.

池田孝恒・岡田謙介 (2018). 反応時間情報を利用する場合としない場合における項目反応モデルのテスト情報量. 専修人間科学論集心理学篇, 8, 1-6.

#### 〈記事・コラム〉

入江崇介・岡田謙介 (2017). 「統計モデリング」には人事のあり方を変える力がある. RMS Message, vol. 47, pp.43-44.

#### 〈招待講演〉

岡田謙介 (2017年11月) 行動分析的データに活用できる(かもしれない)ベイズ統計の方法について. 第25回行動数理研究会 教育セッション (慶應義塾大学)

岡田謙介 (2017年12月) ベイズ統計的アプローチによる項目反応モデルの拡張. 日本テスト学会第11回講演会 (明治学院大学)

#### 〈学会発表〉

Okada, K., Hojo, D. (2017, July). Model comparison in Bayesian item response models for anchoring vignettes. International Meeting of the Psychometric Society 2017. Zurich, Switzerland. (Oral presentation)

Yamaguchi, K., & Okada, K. (2017, July). Comparison of generalized DINA family models with TIMSS 2007 data. International Meeting of the Psychometric

Society 2017. Zurich, Switzerland. (Poster presentation)

Bunji, K., & Okada, K. (2017, July). New IRT model incorporating response time via linear ballistic accumulation. 50th Annual Meeting of the Society for Mathematical Psychology. Warwick, UK. (Poster presentation)

Hojo, D., & Okada, K. (2017, July). Bayesian generalized partial credit type model of anchoring vignettes: Are latent response categories evenly spaced? 50th Annual Meeting of the Society for Mathematical Psychology. Warwick, UK. (Poster presentation)

Ikedu, T., & Okada, K. (2017, July). Fitting a hierarchical Linear Ballistic Accumulator model to response time data collected both online and offline. 50th Annual Meeting of the Society for Mathematical Psychology. Warwick, UK. (Poster presentation)

池田孝恒・岡田謙介 (2017年 8月). 項目反応モデルにおける反応時間の情報利用の効果. 日本テスト学会第15回大会. 東北大学 (口頭発表)

北條大樹・岡田謙介 (2017年 8月). 係留ビネット法の項目数の違いが与える影響の定量的評価. 日本テスト学会第15回大会. 東北大学 (口頭発表)

山口一大・岡田謙介 (2017年 8月). DINA モデルにおける項目パラメタの Boundary Problem について. 日本テスト学会第15回大会. 東北大学 (口頭発表) ※日本テスト学会大会発表賞受賞

山口一大・岡田謙介 (2017年 8月). 認知診断モデルにおける項目パラメタの標準誤差 —サンプルサイズとアトリビュート数に焦点を当てた検討—. 静岡県立大学 (口頭発表)

岡田謙介 (2017年 9月). ベイズ統計学の考え方と教え方について. 日本心理学会第81回大会 自主シンポジウム「ベイズ統計をどう教えていくか—心理統計教育の中への取り入れについて考える—」 話題提供 久留米シティプラザ (口頭発表)

分寺杏介・岡田謙介 (2017年11月). 反応時間を利用する新たな項目反応モデルの提案 —Linear Ballistic Accumulation を用いた効率的な推定法—. 日本計算機統計学会31回シンポジウム 和歌山県立医科大学 (口頭発表) ※学生研究発表賞受賞

Okada, K., Hojo, D., & Takahashik Y. (2017, December). Assessing the stability of response styles by using Bayesian item response modeling. 10th International Conference of the ERCIM WG on Computational

and Methodological Statistics. London, UK. (Oral presentation)

## 臨床心理学コース

下山晴彦 (教授)

### 〈編著・監修〉

下山晴彦 (監修), 中野美奈 (著). 『ストレスチェック時代の職場の「新型うつ」対策 ミネルヴァ書房』, 2018, 総頁数180

下山晴彦 (編著), 『臨床心理フロンティアシリーズ 認知行動療法入門 講談社サイエンティフィック』, 2017, 総頁数247

高橋美保・下山晴彦 (編著) 『シリーズ心理学と仕事 臨床心理学』, 2017, 北大路書房, 総頁数157

下山晴彦 (監修), 堤亜美 (著), 『学校ですぐ実践できる 中高生のための〈うつ予防〉心理教育授業』, ミネルヴァ書房, 2017, 総頁数176

### 〈翻訳〉

下山晴彦 (監訳), 『自閉症スペクトラムの子どものための認知行動療法ワークブック』, 金剛出版, 2017, 総頁数146 (Tony Attwood & Michelle Garnett (2013) CBT to Help Young People with Asperger's Syndrome (Autism Spectrum Disorder) to Understand and Express Affection: A Manual for Professionals. Jessica Kingsley Publishers.)

### 〈特集企画〉

下山晴彦 (編集), 『特集: 公認心理師とチーム医療』 精神療法, 2018, 781-856.

### 〈雑誌論文〉

Toshitaka Hamamura, Shinichiro Suganuma, Mami Ueda, Jack Mearns, Haruhiko Shimoyama. 「Standalone Effects of a Cognitive Behavioral Intervention Using a Mobile Phone App on Psychological Distress and Alcohol Consumption Among Japanese Workers: Pilot Nonrandomized Controlled Trial」 『JMIR Ment Health』 5(1) e24 2018

大井葉月・菅沼慎一郎・下山晴彦, 「iCBTを活用した若手社員のためのメンタルヘルス研修プログラムの改定と実践」, 『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, 41, 2018, pp.1-10.

信吉真璃奈・砂川芽吹・山本瑛美・大賀真伊・小林奈央・内村慶士・冷牟田将吾・下山晴彦, 「強迫症状をもつ発達障害児への認知行動療法プログラム実践の現状と課題」, 『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, 41, 2018, pp.11-18.

小原聡一郎・中村杏奈・浦野由平・萩原萌・恩田豪・下山晴彦, 「対人援助場面における相互行為のエスノメソドロジー研究概観」, 『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, 41, 2018, pp.19-25.

内村慶士・浜村俊傑・北原祐理・大賀真伊・鈴木拓朗・小林奈央・下山晴彦, 「ACT (アクセプタンス&コミットメントセラピー) を用いたポピュレーションアプローチの可能性——well-beingの増進とその予防効果に着目して——」, 『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, 41, 2018, pp.34-41.

冷牟田将吾・砂川芽吹・山本瑛美・信吉真璃奈・李智慧・片岡優介・下山晴彦, 「親を対象とした自助グループ活動の現状と課題」, 『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, 41, 2018, pp.19-25.

Mari Hirano, Kanako Ogura, Mizuho Kitahara, Daisuke Sakamoto, Haruhiko Shimoyama, 「Designing behavioral self-regulation application for preventive personal mental healthcare」, 『Health Psychology Open』, <http://journals.sagepub.com/eprint/78g6UW6iWk59YUTpCyvW/full>

菅沼慎一郎・平野真理・川崎舞子・下山晴彦, 「認知行動療法に基づいたうつの心理教育Webサイトの開発と評価」, 『心理臨床学研究』, 35(2), 2017 pp.192-198

向江亮・下山晴彦, 「企業におけるメンタルヘルス対策の効果・役割への従業員の期待と勤務先の組織要因および個人要因との関連についての検討」 臨床心理学17(3), 207, pp.359-369

大上真礼・平野真理・山本瑛美・下山晴彦, 「ディタッチト・マインドフルネスの促進を目的としたゲーム・アプリケーションの可能性の検討—アプリの開発と実証試験を通して—」, 『マインドフルネス研究』 2(1), 2017, pp.1-7.

シュレンベル レナ・下山晴彦, 「何がうつ病を慢性化させるのか——心理社会的因子——」, 『臨床精神医学』, 46, 2017, pp.521-525.

下山晴彦, 「心理職をめぐるチーム医療の現状と課題」, 『精神療法』, 43(6), 2017, pp.7-9.

上田麻美・下山晴彦, 「心理職をめぐるチーム医療の現状と課題」, 『精神療法』, 43(6), 2017, pp.10-15.

下山晴彦 「論説 認知行動療法—実習を通して学ぶ

一],『家裁調査官研究紀要』23, 2017, 5-15.

#### 〈学会発表〉

浜村俊傑・菅沼慎一郎・上田麻実・下山晴彦. セルフモニタリングアプリが与える飲酒量・日常ストレスへの効果 第39回日本アルコール関連問題学会, 2017, 東京. (ポスター)

浜村俊傑・中村杏奈・吉田成朗・Jack Mearns・下山晴彦. VR表情フィードバック装置が情動・自伝的記憶に及ぼす影響——ネガティブ気分制御期待感に着目して—— 日本心理学会第81回大会, 2017, 久留米. (ポスター)

中村杏奈・下山晴彦. 抑うつ状態とASD傾向では表情認知の苦手さが異なる——学生を対象としたアナログ研究から—— 日本うつ病学会第14回大会, 2017, 東京. (ポスター)

#### 高橋美保 (教授)

##### 〈著書〉

高橋美保 (分担執筆), 「ライフキャリア・レジリエンスの早期教育の試み—パラドキシカルなキャリア理論と臨床心理学の視点から—」, 菅原良・松下慶太・木村拓也・渡部昌平・神崎秀嗣 (編著), キャリア形成支援の方法論と実践, 東北大学出版会, 2017, pp.43-55.

高橋美保 (分担執筆), 「メンタルヘルスの問題を中心に」, 小杉礼子・鈴木晶子・野依智子・(公財)横浜市男女共同参画推進協会, 『シングル女性の貧困—非正規職女性の仕事・くらしと社会的支援』, 明石書店, 2017, pp.117-148.

高橋美保 (編集), 「臨床心理学へのいざない」, 太田信夫 (監修)・高橋美保・下山晴彦 (編集), 臨床心理学: シリーズ心理学と仕事 8, 北大路書房, 2017, pp.1-22.

高橋美保 (分担執筆), 「対人援助の基礎」, 牧野篤 (監修)・飯間敏弘・佐藤智子 (編集), 市民後見入門 東京大学市民後見人養成講座 テキスト版, 2017, pp.140-150.

##### 〈雑誌論文〉

高橋美保 (単著), 「わが国の教育心理学の研究動向と展望 臨床心理学の研究動向と課題」, 『教育心理学年報』, 56, 2017, pp.98-112.

高橋美保 (単著), 「公認心理師をめぐる多職種協働チームの基礎 多職種協働のためのチームワーク論」, 精神療法, 43-6, 2017, pp.28-34.

高橋美保 (共著), 「成人ASD者の就労に関わる支援者が求めるサポート」, (亀田優衣・北中眞貴・原さなみ・生崎文乃・田川薫との共著), 『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 41, 2018, pp.61-68.

高橋美保 (共著), 「臨床場面におけるマインドフルネスの活用に関する課題と今後の展望——セラピスト自身の実践体験から個人面接への導入へ——」, (稲吉玲美・勝又結菜・馬場絢子・本田由美との共著), 『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 41, 2018, pp.69-79.

高橋美保 (共著), 「がんの治療と就労の両立支援連携モデルの作成—医療と企業の専門職のフォーカスグループインタビューから」, (植竹智香・中山奈緒子・江浦瑛子・山口なつみ・亀田優衣・松平浩との共著), 『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 41, 2018, pp.42-51.

高橋美保 (共著), 「心理援助機関における面接経過と終了に関する量的分析—東京大学大学院附属心理教育相談室のデータから」, (石黒香苗・本田由美・稲吉玲美・勝又結菜・野村佳申・馬場絢子・加藤明日花・北中眞貴との共著), 『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 41, 2018, pp.52-60.

高橋美保 (共著), 「研究会企画シンポジウム2 教育心理学から考える“チーム学校”」, (湯澤正通・植阪友理・藤澤信義・水野治久・西幸代との共著), 『教育心理学年報』, 57, pp.282-290.

##### 〈学会発表〉

高橋美保・黒田美保・田川薫・中山奈緒子・齋藤さらさ・野村佳伸・馬場絢子・Alexander Krieg (ポスター発表). 成人の発達障害傾向を測定する多面的評価尺度の開発—多職種連携支援につなげるために, 日本発達心理学会第29回大会, 2018.

中山奈緒子・高橋美保・松平浩 (ポスター発表), 慢性疼痛患者の心理社会的困難の体験に関する質的研究—体験のプロセスおよび社会との関係性に着目して—, 第10回日本運動器疼痛学会, 2017

勝又結菜・中谷裕教・高橋美保 (ポスター発表), fMRIを用いた反芻誘導課題日本語版の作成と評価, 日本心理学会第81回大会, 2017.

##### 〈シンポジウム等〉

高橋美保 (シンポジスト), “働き方改革と生き方改革—ライフから見えること”, 第24回日本行動医学会学術総会シンポジウム『働き方改革』, 2017.

高橋美保 (講演者), 平成28年度市民後見人養成講座 “対人援助の基礎”, 2017.

高橋美保 (企画者), 研究委員会企画 シンポジウム 2 教育心理学から考える“チーム学校”, 日本教育心理学会第59回総会, 2017.

高橋美保 (講演者), “内観療法の作用機序 —臨床心理学の視点から—”, 日本心理医療諸学会連合 (UPM) 第29回大会講習会, 2017.

高橋美保 (講演者), 学会奨励賞特別講演“内観療法が臨床心理学にもたらすもの”, 第40回日本内観学会, 2017.

## 能智正博 (教授)

### 〈著書〉

能智正博 (分担執筆), 「個人の人生の物語りから何が読みとれるか」, 望月雅和 (編) 『山田わか 生と愛の条件——ケアと暴力・産み育て・国家』, 現代書館, pp.243-274, 2018.

### 〈学術論文〉

能智正博 (園部愛子・片山皓絵・横山克貴・眞柄翔太 4 名との共著), 「“見る”に関わる先天性盲児の言語使用の発達——療育場面の縦断的な映像記録の質的分析から——」, 『東京大学大学院教育学研究科紀要』第40巻, 2017, pp. 62-69.

能智正博 (単著), 「グラウンデッド・セオリー」, 『臨床心理学』, 第100号, 2017, 556-557.

能智正博 (単著), 「失語と向き合う20年——障害の語りの変遷から見えるもの」, 『祈りと救いの臨床』, 第3巻第1号, 55-64, 2017.

### 〈学会発表/シンポジウム〉

Nochi, M. (話題提供), Understanding 'Pre-narrative Narratives.' *The 17th Biennial Conference of the International Society for Theoretical Psychology*, Tokyo, Japan, 2017 7月.

能智正博 (ポスター発表), 「ある失語症者における『失語』の意味の長期的変遷——15年を隔てた再インタビューを手がかりに」, 日本心理学会第81回大会, 久留米, 2017 9月

能智正博 (企画・話題提供)・鈴木聡志・大橋靖史・柴山真琴・永田素彦・上淵寿, 「質的研究評価基準への展望——『Sage質的研究キット』とAPAにおける議論を手がかりに」, 日本質的心理学会第13回大会, 東京, 2017 9月

Kanehara, A., Kumakura, Y., Kanata, S., Fujieda, Y., Koike, H., Morita, K., Yamaguchi, S., Miyamoto, Y., Nochi, M., Fukuda, M. & Kasai, K. Development of a framework of recovery for mental health service users in

Japan. *The 6th European Conference on Schizophrenia Research*, Berlin, Germany, 2017 9月

能智正博 (企画・司会)・Vivien Burr・青野篤子・東村知子, 「社会構成主義と生涯発達心理学: Vivien Burr教授を迎えて」, 日本発達心理学会30回大会, 仙台, 2018 3月

### 〈講演・講座〉

能智正博 (話題提供), 「脳損傷者が語る自己～失語の意味とリカバリーをめぐる～」東京大学こころの多様性と適応の統合的研究機構公開シンポジウム: 「脳が作る世界 世界が作る脳」, 東京, 2017 10月.

Nochi, M. (基調講演), Development of the meaning of vision for a congenitally blind child: A longitudinal qualitative analysis of the use of “Look” in treatment sessions. *Joint International Seminar: Education for Diversity*, Stockholm, Sweden, 2018, 2月

能智正博 (講師), 「質的研究法入門」, 日本臨床心理学会臨床心理センター講座42, 東京, 2018 3月

能智正博 (企画・司会)・Vivien Burr・金原明子・熊倉陽介・田中彰吾・田島充士・大橋靖史, 「社会構築主義の視点と臨床の現場——Vivien Burr教授をお招きして」, 東京, 2018 3月.

### 〈その他〉

能智正博 (書評), 『ネガティブ・ケイパビリティ——答えの出ない事態に耐える力』(帯木蓬生著 朝日新聞出版), 『心と社会』, 第48巻第4号, 2017, pp114-115.

能智正博 (書評), 『ADHDでよかった』(立入勝義著, 新潮社), 『心と社会』, 第48巻第3号, 2017, pp. 102-103.

能智正博 (エッセイ), 「障害の受容から障害の受け止めへ」, 『えんかれっじ』, 第17巻, 春号, 2017, pp. 4-5.

## 野中舞子 (講師)

### 〈著書〉

野中舞子 (2018). 児童・思春期の強迫スペクトラム障害に関する臨床心理学的研究—衝動制御の観点から—. 風間書房.

野中舞子 (2018). 第11章 児童・生徒の悩みを理解する. 小山義徳 編著/岩田美保・大芦治・樽木靖夫・野中舞子・伏見陽児・真鍋健 共著「基礎から学ぶ教育心理学」株式会社サイエンス社, pp.211-232.

## 〈雑誌論文〉

野中舞子 (2017). チック・トゥレット症候群の家族ガイダンスと心理教育の実際について, 特別支援教育研究, 719, 21-25.

野中舞子・金生由紀子 (2017). チック・トゥレット症の治療・支援②認知行動療法. 心の科学, 194, 55-60.

## 〈学会発表〉

野中舞子 (2017). チックへの認知行動療法の基礎理解と近年の動向 第24回トゥレット研究会, 東京. (口頭)

松田なつみ・野中舞子・藤尾未由希・河野稔明・金生由紀子 (2017). トウレット症候群におけるチック症状と抑制能力の関連 第58回日本児童青年精神医学会総会, 奈良. (ポスター)

信吉真璃奈・藤尾未由希・松田なつみ・野中舞子・河野稔明・金生由紀子 (2017). 自閉スペクトラム症の感覚過敏の困り感と対処に関する質的検討 第58回日本児童青年精神医学会総会, 奈良. (ポスター)

## 身体教育学コース

多賀 徹太郎 (教授)

## 〈雑誌論文〉

G. Taga, H. Watanabe, F. Homae: Spatial variation in the hemoglobin phase of oxygenation and deoxygenation (hPod) in the developing cortex of infants. *Neurophotonics*. 5(1), 2017

D. Tsuzuki, F. Homae, G. Taga, H. Watanabe, M. Matsui, I. Dan: Macroanatomical landmarks featuring junctions of major sulci and fissures and scalp landmarks based on the international 10-10 system for analyzing lateral cortical development of infants. *Frontiers in Neuroscience* 11, 394, 2017

儀間裕貴, 渡辺はま, 木原秀樹, 中野尚子, 中村友彦, 多賀徹太郎. 極低出生体重児におけるFidgety movements評価と四肢自発運動特性, *理学療法学* 44, 115-123, 2017

## 〈その他〉

多賀徹太郎, 渡辺はま, 保前文高: General principle and individual difference in dynamics of early development of human brain and behavior, 第27回日本神経回路学会全国大会新学術領域『多様な「個性」を創発する脳システムの統合的理解』シンポジウム, 北九州国際会議場, 小倉, 2017.9.21 (招待)

G. Taga: Beyond self-organization - early human development of brain and behavior. Workshop Challenges in understanding Dynamics of Emergent Intelligence, RIKEN Brain Science Institute, Saitama, 2017.12.7 G. Taga: Early development of brain and behavior. Biomedical Optics Research Laboratory, Dept. of Neonatology, University Hospital Zurich, Switzerland, June 21, 2017

G. Taga: Dynamics of human brain and behavioral development. Paleontological Institute and Museum, University of Zurich, Switzerland, July 18, 2017

G. Taga: fNIRS Neuroimaging of the Developing Brain of Young Infants. The Institute of Photonic Sciences, Barcelona, Spain, July 31, 2017

G. Taga: A dynamical systems model for neuro-gliovascular system towards understanding human brain development. 45th Annual Meeting of the International Society on Oxygen Transport to Tissue, Halle, Germany, Aug. 21, 2017

G. Taga: Spontaneous and stimulus-induced activity of the brain during sleep in young infants. Sleep & Health Special Seminar, Institute of Pharmacology and Toxicology, University of Zurich, Switzerland, Aug. 29, 2017

G. Taga: Early human development of brain and behavior. Department of Cognitive Science, Central European University, Budapest, Hungary, Jan. 25, 2018

G. Taga: How do human behaviors emerge from the brain development in embryo, fetus and infant? Department of Biomedical Imaging and Image-guided Therapy, Medical University of Vienna, Vienna, Austria, Feb 22, 2018

G. Taga: Human Brain and Behavioral Development: A Dynamical System's View of Human Development from Morphogenesis of the Brain in Embryo to Emergence of Behaviors in Infants. KLI Colloquia, Konrad Lorenz Institute for Evolution and Cognition Research, Mar 1, 2018

山本 義春 (教授)

## 〈論文〉

Shimizu, E., T. Nakamura, J. Kim, K. Yoshiuchi, and Y. Yamamoto. Application of empirical mode decomposition to mother and infant physical activity: synchronization of circadian rhythms is associated

- with maternal mental health. *Methods of Information in Medicine* 51: 152-157, 2018.
- Yamaguchi, I., A. Kishi, F. Togo, T. Nakamura, and Y. Yamamoto. A robust method with high time resolution for estimating the cortico-thalamo-cortical loop strength and the delay when using a scalp electroencephalography applied to the wake-sleep transition. *Methods of Information in Medicine* 51: 122-128, 2018.
- Leonarduzzi, R., P. Abry, H. Wendt, K. Kiyono, Y. Yamamoto, E. Watanabe, and J. Hayano. Scattering transform of heart rate variability for the prediction of ischemic stroke in patients with atrial fibrillation. *Methods of Information in Medicine* 51: 141-145, 2018.
- Foo, J. C., H. R. Noori, I. Yamaguchi, V. Vengeliene, A. Cosa-Linan, T. Nakamura, K. Morita, R. Spanagel, and Y. Yamamoto. Dynamical state transitions into addictive behaviour and their early warning signals. *Proceedings of the Royal Society B* 284: 20170882, 2017.
- Isobe-Sasaki, Y., M. Fukuda, Y. Ogiyama, R. Sato, T. Miura, D. Fuwa, M. Mizuno, T. Matsuoka, H. Shibata, H. Ito, M. Ono, S. Abe-Dohmae, K. Kiyono, Y. Yamamoto, H. Kobori, M. Michikawa, J. Hayano, and N. Ohte. Sodium balance, circadian BP rhythm, heart rate variability, and intrarenal renin-angiotensin-aldosterone and dopaminergic system during acute phase of ARB treatment. *Physiological Reports* 5: e13302-1-13, 2017.
- Valenza, G., H. Wendt, K. Kiyono, J. Hayano, E. Watanabe, Y. Yamamoto, P. Abry, and R. Barbieri. Multiscale properties of instantaneous parasympathetic activity in severe congestive heart failure: a survivor vs non-survivor study. In: *Proceedings of 39th Annual International Conference of IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC 2017)*, pp. 3761-3764, 2017.
- Bauer, A., A. J. Camm, S. Cerutti, P. Guzik, H. Huikuri, F. Lombardi, M. Malik, C-K. Peng, A. Porta, R. Sassi, G. Schmidt, P. J. Schwartz, P. K. Stein, and Y. Yamamoto. Reference values of heart rate variability. *Heart Rhythm* 14: 302-303, 2017.
- 志村広子, 中村亨, 金鎖赫, 菊地裕絵, 吉内一浩, 山本義春. 勤労者の日常生活下における行動, 心理, 生理, 環境情報の統合連続 モニタリングと大規模データベースの利活用. ヒューマンインターフェース学会論文誌 19: 163-174, 2017.
- 東郷史治 (准教授)**  
 〈著書〉  
 東郷史治 (単著), 「筋力発揮の限界にかかわる脳」, 『疲労と身体運動』, 宮下充正編著, 杏林書院, 2017, pp.16-21.
- 〈雑誌論文〉  
 Yoshizaki T, Komatsu T, Tada Y, Hida A, Kawano Y, Togo F. (共著) 「Association of morningness-eveningness and rotating shift work with habitual dietary intake in Japanese female nurses」, 『Chronobiology International』, 35, pp.392-404, 2018.
- Iwasaki S, Karino S, Kamogashira T, Togo F, Fujimoto C, Yamamoto Y, Yamasoba T. (共著) 「Effect of noisy galvanic vestibular stimulation on ocular vestibular evoked myogenic potentials to bone-conducted vibration」, 『Frontiers in Neurology』, doi:10.3389/fneur.2017.00026. eCollection 2017.
- Kitagawa Y, Ando S, Yamasaki S, Foo JC, Okazaki Y, Shimodera S, Nishida A, Togo F, Sasaki T. (共著) 「Appetite loss as a potential predictor of suicidal ideation and self-harm in adolescents: A school-based study」, 『Appetite』, 111, pp.7-11, 2017.
- 小塩靖崇, 東郷史治 (共著), 「メンタルヘルスの観点から, 思春期の子どもに必要な睡眠時間は?」, 『保健体育教室』 第305号, 2017, pp.7-12.
- 森田賢治 (准教授)**  
 〈雑誌論文〉  
 Jerome Clifford Foo, Hamid Reza Noori, Ikuhiro Yamaguchi, Valentina Vengeliene, Alejandro Cosa-Linan, Toru Nakamura, Kenji Morita, Rainer Spanagel, & Yoshiharu Yamamoto. Dynamical state transitions into addictive behaviour and their early-warning signals. *Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences* 284(1860) pii: 20170882 (2017).
- Kenji Morita & Ayaka Kato. A neural circuit mechanism for the involvements of dopamine in effort-related choices: decay of learned values, secondary effects of depletion, and calculation of temporal difference error. *eNeuro* 5(1) pii: ENEURO.0021-18.2018 (2018).
- Asako Mitsuto Nagase, Keiichi Onoda, Jerome Clifford Foo, Tomoki Haji, Rei Akaiishi, Shuhei Yamaguchi, Katsuyuki Sakai, & Kenji Morita. Neural mechanisms

for adaptive learned avoidance of mental effort. *The Journal of Neuroscience* 38(10): 2631-2651 (2018).

## 岸 哲史 (助教)

### 〈著書〉

岸哲史. 睡眠による回復. 宮下充正 (編著), 「疲労と身体運動～スポーツでの勝利も健康の改善も疲労を乗り越えて得られる～」, 杏林書院. pp.186-191, 2018.

### 〈雑誌論文〉

Kishi, A., H. P. A. Van Dongen, B. H. Natelson, A. M. Bender, L. O. Palombini, L. Bittencourt, S. Tufik, I. Ayappa, D. M. Rapoport. Sleep continuity is positively correlated with sleep duration in laboratory nighttime sleep recordings. *PLoS ONE*, 12:e0175504, 2017.

Yamaguchi, I., A. Kishi, F. Togo, T. Nakamura, Y. Yamamoto. Spectral analysis method for sleep-state cycle based on the cortico-thalamo-cortical loop strength estimation. *2017 International Conference on Noise and Fluctuations (ICNF)*, pp.1-4, 2017.

### 〈招待講演・シンポジウム〉

岸哲史. ヒトの睡眠動態研究の現在と未来. 大阪大学大学院歯学研究科・大学院特別講義 (特別セミナー), 大阪 (2018年2月).

## 教職開発コース

## 秋田 喜代美 (教授)

### 〈著書〉

秋田喜代美・和歌山大学附属小学校 (共著) 『学びをデザインする子どもたち: 子どもが主体的に学び続ける授業』東洋館出版社, 2017, 総頁数251.

秋田喜代美 (単著) 『保育の心意気: 続々保育の心もち』ひかりのくに, 2017, 総頁数159.

秋田喜代美・増田時枝・安見克夫・箕輪潤子 (編著) 『保育内容環境 第3版』秋田喜代美「保育と環境」p.10-19. みらい, 2018, 総頁数175.

秋田喜代美「学び続ける教師と学校文化のために」p.8-10. 「読書教育の推進」p.109, 武田明典 (編著) 『教師と学生が知っておくべき教育動向』北樹出版, 2017

秋田喜代美「日本の授業研究の独自性とこれから」p.150-167. 鹿毛雅治・藤本和久 (編) 『授業研究を創る』教育出版, 2017

秋田喜代美「第6章 保育者にもとめられるもの」p.100-111. 「協同的体験と小学校への接続」p.168-

170. 濱名浩 (編) 『保育内容人間関係第2版』みらい, 2018

無藤隆・秋田喜代美「第1章総則」p.1-72. 無藤隆 (監修) 『幼保連携型認定こども園教育保育要領ハンドブック2017年告示版』学習研究社, 2017.

秋田喜代美「解説 セミナー20年の歩みと学び育ち合うネットワークの形成」pp.242-247. 石井順治 (編著) 『授業づくりで子どもが伸びる, 教師が育つ, 学校が変わる: 授業づくり学校づくりセミナーにおける協同的学びの実践』明石書店, 2017.

### 〈翻訳書〉

イラムシラージ, エレーヌハレット (著) 秋田喜代美 (監訳・解説) 鈴木正敏・淀川裕美・佐川早季子 (訳) 『育み支え合う保育リーダーシップ—協働的な学びを生み出すために』明石書店, 2017, 総頁数212.

秋田喜代美・森敏昭・大島純・白水始 (監訳) 望月俊男・益川弘如 (編訳) 『学習科学ハンドブック第二版 第3巻 領域専門知識を学ぶ/学習科学研究を教室に持ち込む』北大路書房, 2017, 総頁数195.

### 〈学術論文〉

秋田喜代美「協働学習の観察と分析」『授業UD研究』第3巻, 2017, pp.62-69

一前春子・天野美和子・秋田喜代美「保幼小連携の効果に対する保育者・小学校教師の認識: 施設種・免許資格・自治体の観点から」『国際乳幼児教育学研究』第24号, 2017, pp.45-58.

宮本雄太・秋田喜代美・杉本貴代・辻谷真知子・宮田まり子「保育者が捉える幼児の遊び場の認識」『国際乳幼児教育学研究』第23号, 2017, pp.59-72.

辻谷真知子・秋田喜代美・砂上史子・高木恭子・中坪史典・箕輪潤子「幼稚園ホームページの記述スタイル: 子どもの姿を描く常設の項目と更新する項目に着目して」『国際乳幼児教育学研究』第23号, 2017, pp.73-88.

Satomi-Izumi Taylor, Yoko Ito, Chia-Hui Lin, Kiyomi Akita. A comparative study of American, Japanese and Taiwanese early childhood teachers' perceptions of clean-up time. *Research in Comparative & International Education*, 12(2), 232-241, 2017

箕輪潤子・秋田喜代美・安見克夫・増田時枝・中坪史典・砂上史子「時間に制約のある片付け場面における保育者の援助と意図」『保育学研究』第55(1)号, 2017, pp.6-18.

- 秋田喜代美・辻谷真知子・石田佳織・宮田まり子・宮本雄太「園庭環境の調査検討—園庭研究の動向と園庭環境の多様性の検討」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第57巻, pp.445-466, 2018
- 村瀬公胤・秋田喜代美 “Pilot study report on the development of global competences through project-based learning: A self-assessment survey of students”. 『東京大学大学院教育学研究科紀要』第57巻, p p.261-270, 2018.
- 野澤祥子・井庭崇・天野美和子・若林陽子・宮田まり子・秋田喜代美「保育者の実践知を可視化・共有化する方法としての「パターンランゲージ」の可能性」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第57巻, pp.419-450.
- 石橋太加志・沖濱真治・井上享子・楯府暢子・秋田喜代美・小国喜弘・恒吉僚子「探究学習を可能にする教師の指導・支援のあり方についての一考察—附属中等教育学校の卒業研究に着目して」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第57巻, pp.477-492.
- (一般論文)
- 秋田喜代美「子どもが探究する授業のために」『教育創造』第187巻, pp.4-18, 2017
- 秋田喜代美「主体的な遊びを育てることの価値とアポリア」『発達』150号, 2017, pp.18-22.
- 秋田喜代美(連載)「子ども子育ての現在 第1回 保育の質は人生を決める」『書齋の窓』651号, 2017, pp.2-3.「第2回 保育の質は長い目でみるとわかる」『書齋の窓』652号, 2017, pp.2-3.「第3回 遊びの保障」『書齋の窓』653号, 2017, pp.2-3.「第4回 保護者への子育て支援」『書齋の窓』654号, 2017, pp.2-3.「第5回 専門家としての保育士」『書齋の窓』655号, 2018, pp.2-3.
- 秋田喜代美「これからの読書の可能性」『ことのは』, 第1号, pp.1-2, 2017, 東京書籍
- 秋田喜代美「子どもを本が好きにする5つの工夫」『小学生版 子どもが読書好きになるヒントBook』pp.4-5.「本を読むと聞いてホント?」『中学生版 読書の旅にでかけよう』pp.8-9, ベネッセ, 2017
- 秋田喜代美「これからの読書を考える—スマホ時代の読書と子どもの発達」『児童心理』第1055巻, pp.257-266, 2018
- 秋田喜代美「心理学で広がり深まる学校教育の世界」『授業力&学級経営力』第89巻, 4-7, 2017
- 秋田喜代美「保幼小連携 育ち合うコミュニテイ創り」『新教育課程ライブラリ』第10巻, pp.18-19,

2017

- 秋田喜代美「新教育課程が求めるこれからの教師力」『教育展望』, 第63巻8号, pp.4-10, 2017
- 秋田喜代美「統合的な学びのための授業を考える」『子どもと授業』79巻, pp.4-13, 2017.
- 秋田喜代美「赤ちゃん学の未来」『BABLAB』第1巻, p.7, 同志社大学赤ちゃん学研究センター 2017.
- 秋田喜代美「博物館における人材育成—学校教育との連携を例に」『博物館研究』第53巻, pp.10-12, 2018
- 秋田喜代美・藪ゆき子「対談 保育の新と真を探る 洗濯機革命の立役者に学ぶ新たなモノを作り出す極意」『保育ナビ』第9号2巻, 14-21, 2018
- 秋田喜代美「今後の幼児教育の方向性と園のリーダーシップ: 挑戦や探求のある遊びの保障」『全日本私立幼稚園連合会第31回東北地区私立幼稚園教員研修大会福島大会集録』, pp.10-18, 2017.

#### 〈DVD企画制作〉

- 秋田喜代美(監修解説) 東京都品川区立第一日野小学校・第一日野すこやか園『ななめの教育 保幼小連携のコミュニテイ創り』, (公財) 日本児童教育振興財団教育ビデオライブラリ, 2017.

#### 〈学会発表〉

##### (国際学会)

- Akita, K. (招待講演)「資質能力育成のためのカリキュラム改革と授業」素養導向課程與教學大会 2017.4.29, 台湾: 淡江大学
- Akita, K. (招待講演)「日本における授業研究と教師の専門性」中国: 福州福建師範大学研究大会, 2017.5.29
- Akita, K. (key note speech) “Innovation for Schools as Learning Community” Thailand: Bangkok EDUCA 2017.10.16
- Akita, K. (Panelist) “Lesson Studies for Deep Learning” Thailand: Bangkok EDUCA 2018 2017.10.17.
- Akita, K. (Invited symposium) ‘Learning Communities in Schools and across Schools as Innovative Networks’. World Association of Lesson Studies, 2017. Japan Nagoya University. 2017.11, 24<sup>th</sup>.
- Akita, K. (招待講演) “Improving Quality in Education through Lesson Study” *International Congress for School Effectiveness and Improvement*, 2018.1. 10<sup>th</sup> Singapore: NIE
- Akita, K. (Master class 講師) “Cultural practices

- of Japanese schools”*International Congress for School Effectiveness and Improvement*, 2018.1. 11th Singapore: NIE
- AKITA, K., MIYAMOTO, Y., TSUJITANI, M., SUGIMOTO, T. & MIYATA, M. “How Do Preschool Children and Teachers Recognize their Playgrounds?” *Early Start Conference*, Australia; Woolongong University. 2017.9.
- Akita, K., Ichizen, H. and Amano, M. “Japanese parents’ expectations and recognition of the benefits of preschool collaborations: A comparison of birth order and agen of child”. *EECERA30th August*,. 2017 Univerdita Bologna II, 71.
- Ichizen, H. Akita, K. and Amano, M. “Japanese teachers’ attitudes to collaboartion between ECEC setting and elementary school: Continuity from nursery school and kindrgarten to elementary school.” *EECERA30th August*,. 2017 Univerdita Bologna II, 2.
- Miyamoto, Y. Sugimoto, T., Akita, K. Tsuhjutani, M. and Miyata, M. “How do preschool children recognize their play grounds?” *EECERA30th August*,. 2017 Univerdita Bolohnya E.9.
- Nozawa, S. Yodogawa, Y., Akita, K. Current situation and challenges to improve quality of pre-servgice ECEC education in Japan. *EECERA30th August*,. 2017 Univerdita Bolohnya C, 17.
- (国内学会)**
- 秋田喜代美「日本保育学会70年の歩みとこれから」日本保育学会70周年記念シンポジウム話題提供者, 川崎医療福祉大学, 日本保育学会第70回大会 p.32-33. 2017.5.20
- 秋田喜代美「新たな乳幼児保育・教育の方向への展望」大会企画シンポジウム『新要領・新指針から捉える保育の方向性』日本乳幼児教育学会第27回大会, 西南学院大学, 2017.11.12.
- 野澤祥子・淀川裕美・高橋翠・遠藤利彦・秋田喜代美「1歳児・3歳児・5歳児クラス担任が考える「質の良い保育」とは—全国の保育・幼児教育施設大規模調査から①②—」日本保育学会第70回大会, 川崎医療福祉大学, 日本保育学会第70回大会 p.32-33, 2017.5.20
- 辻谷真知子・石田佳織・秋田喜代美・杉本貴代・宮田まり子・宮本雄太「園庭の実態と実践(3) 危険についての語りに着目して」こども環境学会2017年大会, 2017.5.27, 北海道文教大学, K1
- セッション, こども環境学研究, 13(1), P45
- 石田佳織・辻谷真知子・秋田喜代美・杉本貴代・宮田まり子・宮本雄太「園庭の実態と実践(4) 改修のきっかけと維持の主体者」こども環境学会2017年大会, 2017.5.17, 北海道文教大学, K1
- セッション, こども環境学研究, 13(1), P46.
- 宮田まり子・秋田喜代美・杉本貴代・辻谷真知子・宮本雄太・石田佳織「園庭の実態と実践V」国際幼児教育学会第38回大会プログラム, 2017.9.2, 国立台北教育大学
- 辻谷真知子・秋田喜代美・杉本貴代・石田佳織・宮田まり子・宮本雄太「保育施設における園庭の実践と価値観の検討」日本教育心理学会第59回総会, 名古屋国際会議場, ポスター発表PG46, 2017.10.9
- 杉本貴代・秋田喜代美・辻谷真知子・宮田まり子「子どもは校内の好きな場所による価値を見出しているか? 小学1年生対象の質問紙調査試み」日本教育心理学会第59回総会, ポスター発表PE75, 名古屋国際会議場, 2017.10.8
- 中坪史典・秋田喜代美・小田豊・芦田宏・門田理世・鈴木正敏・上田敏丈・野口隆子・箕輪潤子「写真評価法(PEMQ)を用いた園内研修がもたらす環境構成に対する保育者の意識」日本教育方法学会第53回大会, 千葉大学, 2017.10.8
- 上田敏丈・秋田喜代美・小田豊・芦田宏・上田敏丈・門田理世・鈴木正敏・中坪史典・箕輪潤子・森暢子・福田善之・淀川裕美「私立幼稚園の主任保育者のリーダーシップに関する研究」日本乳幼児教育学会第27回大会, 西南学院大学研究発表Ⅲ—4 2017.11.12.
- 天野美和子・野澤祥子・宮田まり子・秋田喜代美「主任保育者のリーダーシップに関する経験値の検討(1)(2)」日本乳幼児教育学会第27回大会, 西南学院大学研究発表Ⅳ—4 2017.11.12.
- 野口隆子・秋田喜代美・無藤隆・小田豊・芦田宏・上田敏丈・門田理世・鈴木正敏・中坪史典・箕輪潤子・森暢子「保育の質が幼児の発達に与える影響—4歳から小2の言語発達に関する縦断的検討」日本発達心理学会第29回大会, p.429, 2018.
- 〈報告書〉**
- ベネッセ教育総合研究所(無藤隆・秋田喜代美・一見真理子・榊原陽一・荒牧美佐子)『日本・中国・インドネシア・フィンランド幼児期の家庭教育国際調査』2018, 総頁数19頁

秋田喜代美「日本における保育の課題と展望」8-19, 「子どもの遊びをはぐくむ保育者：育ちを見通した学びの多様性」, 30-31, ベネッセ教育総合研究所『ECEC研究報告書「世界と日本の実践から見る「遊びと学び」と「保育の質」』, 2018  
 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター園庭調査グループ『子どもの経験をより豊かに：園庭の質向上のためのひと工夫へのいざない』, 総頁数19頁

## 藤江 康彦 (教授)

### 〈著書〉

藤江康彦 (単著) 『『エビデンスに基づく教育』に関する研究の動向』日本教育方法学会 (編) 『教育方法46学習指導要領の改訂に関する教育方法的検討：「資質・能力」と「教科の本質」をめぐる』, 図書文化, 2017, Pp.140-150.

### 〈一般論文〉

藤江康彦「主体的・対話的で深い学びによるこれからの授業改善」『教育展望』2017年4月号, 一般財団法人教育調査研究所, 2017, pp.28-33.

藤江康彦「「発問」づくりの大前提：真に思考を促すための、学習者観の問い直し」『看護教育』2017年4月号, 医学書院, 2017, pp.254-260.

### 〈学会発表〉

藤江康彦「学校と地域による小中一貫教育像の協働的生成：開校に向けた語りの分析」, 日本教育方法学会第53回総会 (於：千葉大学, 千葉市), 日本教育方法学会第53回大会発表要旨, 2017, 98.

藤江康彦「小中一貫校の学校づくりにおける教師の学習：開校準備に携わる教師の語りに着目して」, 日本教育心理学会第59回総会 (於：名古屋国際会議場, 名古屋市), 日本教育心理学会第59回総会発表論文集, 2017, 662.

### 〈講演等〉

藤江康彦 (招待講演) 「二十一世紀の教室所追求之教師の能力：關於素養導向的課堂 (21世紀の教室が教師に求めるもの：コンピテンシーを育む授業づくりに向けて)」, 第五屆師資培育國際學術研討會-各科教材教法 (The 5th International Conference on Teacher Education: Focusing on Teaching Methods and Materials) (於：淡江大学, 新北市：台湾)

藤江康彦 (企画・司会) 「課題研究Ⅰ エビデンスに基づく教育と教育実践研究の課題」 (石井英真氏と共同企画, 登壇者：田上哲氏, 益川弘如氏,

湯浅恭正氏), 日本教育方法学会第53回大会 (於：千葉大学, 千葉市), 日本教育方法学会第53回大会発表要旨, 2017, 25-29.

## 浅井 幸子 (准教授)

### 〈著書・共著〉

福元真由美編『子ども教育の原理』有斐閣, 2017年7月。(第5章「子ども教育の系譜」89-109頁, 第6章「子どもという存在」111-129頁。)

### 〈論文・単著〉

「東京保育問題研究会における「伝えあい保育」の成立と展開－乾孝の「伝えあいの心理学」との関係に着目して－」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第57号, 2018年3月, 241-259頁。

### 〈学会発表等〉

(研究発表) 浅井幸子・黒田友紀・柴田万里子・望月一枝・金田裕子・北田佳子・申智媛「子どもと女性教師のエンパワメントを促す学校改革－オーセンティシティの回復に着目して－」日本教育方法学会第53回大会, 2017年10月8日。

(ポスター発表) Sachiko ASAI, Developing Teacher-Scholar Partnerships in Early Years Education Lesson Studies: The historical legacy of voluntary research groups in Japan, The WALIS International Conference 2017, 26 November 2017, Nagoya University, Japan.

(報告) 「大会を終えて」『幼児教育史学会会報』25号, 2018年2月, 4頁。

(エッセイ) 「スウェーデンの保育・幼児教育を訪ねて－ストックホルム・プロジェクトの現在－」和光大学現代人間学部心理教育学科保育実習センター『保育実習センター通信』8号, 2018年3月, 16-20頁。

## 天野 美和子 (特任研究員)

### 〈雑誌論文〉

天野美和子 (単著) 「保育所における職場体験の中学生に対する幼児の態度・行動の検討－5歳児クラスの幼児と中学生とのエピソードの分析－」『国際幼児教育研究』第25号, 国際幼児教育学会, 2018, pp.31-44.

一前春子・秋田喜代美・天野美和子「保幼小連携の取り組みの効果に対する保護者の視点－保護者は連携をどのような取り組みととらえているのか－」『国際幼児教育研究』第25号, 国際幼児教育学会, 2018, pp.91-104.

## 〈学会発表〉

野澤祥子・宮田まり子・天野美和子「“パターン・ランゲージ”による主任保育者の実践知の可視化と共有化(1)―“パターン・ランゲージ”アプローチの意義の検討―」日本保育学会第71回大会, 2018.5.12, K-B-11-165.

天野美和子・野澤祥子・秋田喜代美「“パターン・ランゲージ”による主任保育者の実践知の可視化と共有化(2)―園における主任保育者の役割とは?―」日本保育学会第71回大会, 2018.5.12, K-B-11-166.

Haruko Ichizen・Kiyomi Akita・Miwako Amano, European Early Childhood Education Association (EECERA) 28th Conference, Budapest, Hungary, 28th EECERA ANNUAL CONFERENCE Abstract book, p.258.

一前春子・秋田喜代美・天野美和子「保幼小連携における保育者からみた「ずれ」の認識」『日本教育心理学会第60回総会発表論文集』, p.568.

天野美和子・野澤祥子・宮田まり子・井庭崇・秋田喜代美「園におけるミドルリーダーのためのパターン・ランゲージ」日本乳幼児教育学会第28回大会, 2019.12.9.

## 教育内容開発コース

齋藤 兆 史 (教授)

## 〈著書〉

齋藤兆史 (単著), 『めざせ達人! 英語道場』, ちくま書房, 2017, 総ページ数190.

齋藤兆史 (単著) 『見つめ合う英文学と日本——カーライル, ディケンズからイシグロまで』, 日本放送出版協会, 2018, 総ページ数184.

藤 村 宣 之 (教授)

## 〈著書〉

藤村宣之 (編著), 『協同的探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために—』(橘春菜氏, 名古屋大学教育学部附属中・高等学校との共編著), ミネルヴァ書房, 2018, 総頁数237.

## 〈学会発表〉

藤村宣之「教科教育の心理学: (1) 授業実践を見通した実験・調査研究のあり方」日本教育心理学会第59回総会自主企画シンポジウム企画, 2017.

北 村 友 人 (准教授)

## 〈著書 (分担執筆)〉

Ryoko Tsuneyoshi and Yuto Kitamura, “Introduction”, in Tsuneyoshi, R. (ed.). *Globalization and Japanese “Exceptionalism” in Education: Insiders’ Views into a Changing System*. New York: Routledge, 2018, pp.3-18.

Yuto Kitamura, “Global Citizenship Education in Asia”, in Tsuneyoshi, R. (ed.). *Globalization and Japanese “Exceptionalism” in Education: Insiders’ Views into a Changing System*. New York: Routledge, 2018, pp.61-76.

## 〈雑誌論文〉

D. Brent Edwards Jr., Taeko Okitsu, Romina Dacosta, and Yuto Kitamura, “Regaining legitimacy in the context of global governance? UNESOC, Education for All coordination and the Global Monitoring Report”, *International Review of Education*, Vol.63, No.3, 2017, pp.403-416.

Yuto Kitamura, “Education for Sustainable Development in Asia”, *Oxford Research Encyclopedia of Education*, December 2017, pp.1-25.

D. Brent Edwards Jr., Taeko Okitsu, Romina Dacosta, and Yuto Kitamura, “Organizational Legitimacy in the Global Education Policy Field: Learning from UNESCO and the Global Monitoring Report”, *Comparative Education Review*, Vol.62, No.1, 2018, pp.31-63.

## 学校開発政策コース

勝 野 正 章 (教授)

## 〈著書〉

日本教師教育学会編『教師教育研究ハンドブック』学文社, 2017年9月, 418p.「第四部 第5章 2 教員評価」(pp.322-325) 執筆

Flores, M.A., Machado, E.A. and Alves, M.P. (eds). (2017). *Avaliação das Aprendizagens e Sucesso Escolar: Perspetivas Internacionais*, Santo Tirso – Portugal: De Facto Eitores. CAPÍTULO 5 Desafios do Exame Nacional no Sistema de Ensino no Japão, Pp. 91-108.

## 〈雑誌論文〉

勝野正章「副校長・教頭職の魅力」学校運営No.671 2017年6月号, pp.6-9

勝野正章「『学習の論理』による生活の合理化・効率化」生活教育No.824 2017年7月号, pp.56-62

勝野正章「教員の長時間労働を考える」学校運営No.679 2018年2月号, pp.6-9

## 〈その他〉

Katsuno, M. (2017). How do teacher evaluation practices affect school leadership in Japan? 18<sup>th</sup> Biennial Conference on Teachers and Teaching, International Study Association on Teachers and Teaching, Symposia Improving teacher evaluation: Key issues for appraisers in a globalized era Salamanca, 3-7 July 2017

Katsuno, M. (2017). Challenges for Japanese teachers' professional learning: What do they want in order to improve their teaching and student learning? 18th Biennial Conference on Teachers and Teaching, International Study Association on Teachers and Teaching, Symposia Teaching search and research: Challenges and opportunities for teachers and their professional learning Salamanca, 3-7 July 2017

勝野正章「書評 笹沙知章著『アメリカ学校財政制度の公正化』（東信堂 2016年）」日本教育経営学会紀要 第59号, 2017年6月, pp.172-174

## 村上祐介(准教授)

## 〈雑誌論文〉

村上祐介, 「行政における専門職の責任と統制—教育行政を事例として—」『年報行政研究』(52) 2017年5月 pp.69-88

高橋翠・淀川裕美・野澤祥子・関智弘・村上祐介・遠藤利彦・秋田喜代美, 「保育・幼児教育施設における保護者との情報共有と利用ツール(2) 施設形態・運営主体によるツール利用状況の差異」, 『電子情報通信学会技術研究報告』117(29) 2017年5月, (査読有) pp.43-48

## 〈その他〉

村上祐介, 「検証・新教育委員会制度の現状と課題」(『時報市町村教委』2017年9月号, pp.2-4)

丹羽良徳(編著), 『資本主義が終わるまで』, (担当: 分担執筆, 範囲: pp.31-34 (「教育と政治をめぐる新たな時代へ」))

村上祐介, 「総合教育会議の効果的な活用と, 教育行政に長けた人材の育成・配置を(インタビュー)」(『VIEW21教育委員会版』, 2017 Vol.4)

## 〈学会発表等〉

村上祐介「地域・教育機関との連携の観点から」『家族・支援者に役立つ「発達障害」理解の最前線—利用しやすい最新支援サービスの提供に向けて—』東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター主催シンポジウム,

2017年7月2日

村上祐介「調査分析の結果から(解説)」発達保育実践政策学センター公開シンポジウム, 2017年8月6日

村上祐介「教育政治学とは何かを考える(討論)」2017年度日本政治学会大会, 2017年9月23日

村上祐介「ノンキャリア官僚のリクルートとモチベーション—文部科学省を事例として—」2017年度日本政治学会大会, 2017年9月24日

## 学校教育高度化・効果検証センター

## 中村高康(教授)

## 〈著書〉

乾彰夫・本田由紀・中村高康(編), 『危機のなかの若者たち 教育とキャリアに関する5年間の追跡調査』, 東京大学出版会, 2017, 総頁数410.

本田由紀・中村高康(責任編集), 『教育社会学のフロンティア1 学問としての展開と課題』, 岩波書店, 2017, 総頁数320.

## 〈その他〉

中村高康(単著), 「相対的学歴指標と教育機会の趨勢分析—2015年SSM調査データを用いて—」, 『2015年SSM調査研究報告書(教育I)』, 2015年SSM調査研究会, 2018, pp.261-277.

中村高康(単著), 「メリトクラシー」日本社会学会理論応用事典刊行委員会編『社会学理論応用事典』, 丸善, 2017, pp.436-437.

中村高康(単著), 「階級と階層」『後期近代社会』日本教育社会学会編『教育社会学事典』, 丸善, 2018, pp.100-101, pp.112-113.

## 高橋史子(助教)

## 〈著書〉

Tsuneyoshi, R., Takahashi, F., Ito, H., Seulbi, L., Sumino, M., Kihara, T., Kunodera, S., & Ishiwata, H., "Japanese Schooling and the Global and Multicultural Challenge", In Ryoko Tsuneyoshi ed., *Globalization and Japanese "Exceptionalism" in Education: Insider's Views into a Changing System*, Routledge, 2017, pp.190-212.

Tokunaga, T., Nukaga, M., and Takahashi, F., "Growing Up in Multicultural Japan: Diversifying Educational Experiences of Immigrant Students", In Akiyoshi Yonezawa, Yuto Kitamura, Beverley Yamamoto and Tomoko Tokunaga eds., *Education in Japan in a Global Age: Sociological Reflections and Future*

*Directions*. 2018, Springer, pp.155-174.

〈学会発表〉

草薨佳奈子・高橋史子・譚君怡・住野満稲子・恒吉僚子, 「日本, 台湾, シンガポールの学校内掃除活動の比較分析—「社会情動」的側面の育成に関する意味付け」, 第53回日本比較教育学会大会, 2017年6月25日.

高橋史子・草薨佳奈子, 「シンガポールと台湾の非認知的教育活動—教科書分析からみる教育目的や位置づけ」, 第26回日本特別活動学会, 2017年8月27日.

Takahashi, F., "Teachers' Role as Socializee in Multicultural Society: Case study of Tokyo, Japan", Joint Seminar of Stockholm University, University of Jyväskylä and The University of Tokyo on "Education for Diversity", Stockholm University, Sweden, 21 February, 2018.

喜入 暁 (特任研究員)

〈著書〉

喜入暁 (共著). 「第8章 ドメスティック・バイオレンス」『テキスト 司法・犯罪心理学』(越智啓太・桐生正幸(編)), 北大路書房, 2017, 総頁数632.

〈雑誌論文〉

Kiire, S. (単著). "Psychopathy rather than Machiavellianism or narcissism facilitates intimate partner violence via fast life strategy", 『Personality and Individual Differences』Volume104, International Society for the Study of Individual Differences, 2017, pp.401-406.

喜入暁 (単著). 「パートナーに対する暴力の進化的基盤」, 『法政大学大学院紀要』, 第79巻, 法政大学大学院, 2017, pp.95-105.

喜入暁・久保田はる美・新岡陽光・越智啓太 (共著). 「日本における連続殺人事件の類型と単一殺人事件との比較」, 『心理学研究』第87巻6号, 日本心理学会, 2017, pp.633-643.

発達保育実践政策学センター

野澤 祥子 (准教授)

〈雑誌論文・学会発表〉

野澤祥子・井庭崇・天野美和子・若林陽子・宮田まり子・秋田喜代美 2018 保育者の実践知を可視化・共有化する方法としての「パターン・ランゲージ」の可能性 東京大学大学院教育学研究科

紀要 第57巻 419-449

野澤祥子 保育の場におけるアタッチメント 2017 発達 第153巻 55-60.

天野美和子・野澤祥子・宮田まり子・秋田喜代美 2017 主任保育者のリーダーシップに関する経験知の検討(1)—グループインタビューにおける語りの分析— 日本乳幼児教育学会第27回大会 研究発表IV-3

野澤祥子・天野美和子・宮田まり子・秋田喜代美 2017 主任保育者のリーダーシップに関する経験知の検討(2)—リーダーシップスケールとの関連の分析— 日本乳幼児教育学会第27回大会 研究発表IV-4

Nozawa, S., Takahashi, M., Yodogawa, Y., Endo, T., & Akita, K. 2017 Challenging process quality in Japanese ECEC settings (1): Results from the CEDEP large-scale staff survey. Early Start Conference 2017 (Session 5 Growing Through Relationship).

Yodogawa, Y., Sagawa, S., Nozawa, S., Endo, T., & Akita, K. 2017 Challenging process quality in Japanese ECEC settings (2): Introduction of the newly developed assessment tool in Japan. Early Start Conference 2017 (Session 5 Growing Through Relationship).

Nozawa, S., Yodogawa, Y., & Akita, K. 2017 Current situation and challenges to improve quality of preservice ECEC teacher education in Japan. 28th Annual EECERA conference (p.97).

Yodogawa, Y., Takahashi, M., Nozawa, S., Endo, T., & Akita, K. 2017 Mealtime practice in Japanese ECEC settings: Findings from a largescale staff survey in 2015. 28th Annual EECERA conference (p.276).

淀川裕美・野澤祥子・高橋翠・遠藤利彦・秋田喜代美 2017 園長・主任が考える「質の良い」保育とは—全国の保育・幼児教育施設大規模調査から①— 日本保育学会第70回大会 K-C-13 235.

野澤祥子・淀川裕美・高橋翠・遠藤利彦 2017 1歳児・3歳児・5歳児クラス担任が考える「質の良い保育」とは—全国の保育・幼児教育施設大規模調査から②— 日本保育学会第70回大会 K-C-13 236.

高橋翠・野澤祥子・遠藤利彦 2017 特別な支援を必要とする子どもに対する支援体制と課題—全国の保育・幼児教育施設大規模調査から— 日本保育学会第70回大会 P-B-14 9

野澤祥子 2017 第44回「都市問題」公開講座 子育て支援の現在と未来 パネルディスカッション 都市問題108巻 pp.4-57

〈その他〉

野澤祥子 2017 「より良い保育の質とカリキュラムの探求」—Cedep大規模調査の結果から— 日本乳幼児教育学会第27回大会自主シンポジウムI-4「より良い保育の質とカリキュラムの探求」話題提供

野澤祥子 2017 ビックデータを活用した保育環境構成に関する集合知の生成 日本発達心理学会第29回大会 自主シンポジウムSS7-3「保育学における人工知能技術(AI)の可能性—エビデンスに基づく保育への挑戦」話題提供

淀川裕美(特任講師)

〈学術論文〉

會退友美・倉田新・酒井治子・坂崎隆浩・林薫・淀川裕美・池谷真梨子・久保麻季(共著) 2017 保育所・認定こども園における職を通した保育・教育ニーズと、そのための保育者の専門性に関する研究, 保育科学研究, 8, 62-83.

〈著書〉

淀川裕美(共著) 第1章 乳児期の言葉の発達過程 秋田喜代美・野口隆子(編著)『保育内容 言葉(乳幼児教育・保育シリーズ)』, 光正館, 2018, pp.20-36.

イラム・シラージ, エレーヌ・ハレット(著) 秋田喜代美(監訳) 鈴木正敏・淀川裕美・佐川早季子(訳)『育み支え合う 保育リーダーシップ—協働的な学びを生み出すために』, 明石書店, 2017, 総頁数212.

〈学会発表〉

淀川裕美・高橋翠・野澤祥子・遠藤利彦・秋田喜代美 2017 園長・主任の考える「質の高い保育」とは—全国の保育・幼児教育施設大規模調査から①—, 日本保育学会第70回大会(口頭発表).

Yumi Yodogawa, Midori Takahashi, Sachiko Nozawa, Toshihiko Endo, Kiyomi Akita 2017 Mealtime practice in Japanese ECEC settings: Findings from a large-scale staff survey in 2015, 27th EECERA Conference (poster presentation).

Yumi Yodogawa, Sakiko Sagawa, Sachiko Nozawa, Toshihiko Endo, Kiyomi Akita 2017 Challenging process quality in Japanese ECEC settings (2):

Introduction of the newly developed assessment tool in Japan, Early Start Conference 2017 (oral presentation).

淀川裕美 2017 食事場面における保育者と子どものかかわりに関するテキスト分析, 日本教育心理学会第59回総会(ポスター発表).

淀川裕美 2017 5歳児の園における食事場面の認識に関する分析, 日本乳幼児教育学会第27回大会(口頭発表).

〈その他〉

淀川裕美・高橋翠 2017 保育士の健康と労働環境—全国保育・幼児教育施設調査から—, 日本睡眠学会第42回学術集会 シンポジウム20「女性の睡眠と健康を考える」(話題提供).

淀川裕美 2017 乳幼児教育学の過去・現在・未来への提言Ⅲ—将来への展望—, 日本乳幼児教育学会第27回大会 学会企画シンポジウム(話題提供).

淀川裕美 2017 家庭における食事提供の実態とそれを支える価値観や規範, 日本発達心理学会第28回大会 ラウンドテーブル(話題提供).

佐々木 織 恵(特任助教)

〈雑誌論文〉

1. 福嶋真治・佐々木織恵・大庭梓・栗田晃宏(共著), 「専門職の学習共同体(PLC)の構成要因に関する検討」『教育行政学論叢』第37号, 2017, pp.109-132.

2. 福嶋尚子・佐々木織恵(共著), 「教育条件を重視する学校評価の理論と制度—教職員, 児童生徒・保護者一体の学校づくりの観点から—」『千葉工業大学研究報告』, 第64号, 2017, 65-72頁.

3. 佐々木織恵(学会発表), 「学校評価における目標管理が教職員間の協働に及ぼす影響に関するマルチレベル分析」, 『日本教育経営学会第57回』茨城大学, 2017.

4. SASAKI Ori (学会発表), The impact of Japanese school evaluation on collaboration among teachers: focusing on the function of performance management, *International Congress for School Effectiveness and Improvement*, Singapore, 2018.

新屋 裕 太(特任研究員)

〈著書〉

新屋裕太・今福理博. 「第4章 胎児期・周産期」. 開一夫・齋藤慈子編著『ベーシック発達心理学』, 分担執筆, 東京大学出版会, 2018, pp.55-76.

**〈雑誌論文〉**

Shinya, Y., Kawai, M., Niwa, F., Imafuku, M., & Myowa, M. (2017). Fundamental frequency variation of neonatal spontaneous crying predicts language acquisition in preterm and term infants. *Frontiers in Psychology*, 8:2195. doi:10.3389/fpsyg.2017.02195.

**〈学会発表〉**

新屋裕太・藤井進也・渡辺はま・多賀巖太郎. 「赤ちゃん用センサースーツの開発と今後の展望」『人生のはじまりを豊かに～乳幼児の発達・保育研究のイノベーション～』, 口頭発表, 東京, 2017年8月.

新屋裕太・河井昌彦・丹羽房子・今福理博・明和政子. 「早産児の自発的啼泣のメロディーと乳児期の言語発達に関連」『発達神経科学学会第6回学術集会』, ポスター発表, P11, 大阪 2017年11月.

新屋裕太・河井昌彦・丹羽房子・今福理博・明和政子. 「早産児における乳児期の実行機能の発達評価：眼球運動計測による検討」『発達神経科学学会第6回学術集会』, ポスター発表, P12, 大阪 2017年11月.

新屋裕太・奥絢介・藤井進也・渡辺はま. 「身体運動可聴化技術を用いた乳児の音遊び行動とその生理的機構」『2017年度関連SEEDプロジェクト成果報告会』, ポスター発表, P17, 東京, 2018年1月.